

II-3. 「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究プログラムの共同開発」事業における主な5プログラム以外の教育研究活動に関する成果報告

本事業に参画している国公立19大学においては、それぞれの教育理念や教育研究上の目的に基づいて、三つの方針のさらなる高度化・実質化を図り、これに沿った高度先導的薬剤師の養成に取り組んでいる。本事業は、国公立大学の薬学部及び大学院博士課程における基盤的な教育研究プログラムを推進するものである。したがって、参画大学において、本事業の目的と同様の高度先導的薬剤師の養成に向けて、本事業以外の文部科学省等の省庁や学術振興会等の助成事業や、大学独自に物的・人的リソースを活用することによって実施する取組や教育研究プログラムについても、各大学の裁量に任せて、このような事業の実施に係る規定に反しない範囲で、上記の本事業の5つのアドバンスト教育研究プログラムの一環、あるいは本事業の連携あるいは共同事業として位置づけ、実施することとした。

以下、参画大学の判断により、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラム以外の教育研究活動として実施した取組や教育研究プログラム、あるいは5つのアドバンスト教育研究プログラムには含まれるものの、別に特徴ある取組や教育研究プログラムとして取り上げたものについて、その事業報告を行う。

このような取組や教育研究プログラムとしては、

1. 各地区（全国8地区）で他大学や病院・薬局実務実習地区調整機構、薬剤師会、病院薬剤師会等との連携によって実施された取組や教育研究プログラム
2. 学部卒業者、大学院博士課程修了者と連携した取組や教育研究活動及び卒業者、修了者を支援する取組や教育研究プログラム
3. 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に合わせた取組や教育研究活動あるいは学部教育・大学院教育の質を向上させるための大学独自の取組や教育研究活動（組織・教育課程の改編、カリキュラム改訂、実務実習の実施体制・内容の変更等）
4. 大学院博士課程進学を促進するための取組や教育研究活動

があげられる。

なお、事業の主幹校である大阪大学において実施したアドバンスト教育研究プログラム等の取組は、事業運営に関わるものもあるので、別途項を設けて報告するものとする。また、大阪大学主催の取組あるいは大阪大学を実施責任者とした取組についても、別項により報告する。

1. 各地区（全国8地区）で他大学や病院・薬局実務実習地区調整機構、薬剤師会、病院薬剤師会等との連携によって実施された取組や教育研究プログラム

国公立19大学は、全国の北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中・四国及び九州・山口の8地区に位置する。それぞれの大学は、各地域において薬学教育研究の中核大学として、薬剤師会や病院薬剤師会、さらには私立薬系大学との連携によって、優れた薬学人材の育成や、地域医療の発展に尽力・貢献してきた。各大学のこういった地域での教育研究活動とその評価については、薬学教育評価機構が実施した第三者評価の自己・点検評価書及び評価報告書に詳しく記載されている（中項目8. 社会連携・社会貢献、【基準8-1】教育研究活動を通じて、社会と連携し、社会に貢献していること）。ここでは、それらの中から、2016年（平成28年）度以降の本事業に関連する地域における教育研究活動、すなわち、参画大学が各地区（全国8地区）で他大学や病院・薬局実務実習地区調整機構、薬剤師会、病院薬剤師会等との連携によって実施された取組や教育研究プログラムについて報告する。

以下、参画大学の事業成果報告をもとに、年度毎に、実施大学別に教育研究プログラムとその概要をまとめた。事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては、別添の資料が提出されているが、紙面の関係上本報告書には掲載していない。これらについては、本事業のホームページあるいは各実施大学のホームページ等で公開しているので、参照いただきたい。また、参画大学からの事業報告の中で、本事業の主な5つのアドバンスト教育研究プログラムとしても報告があるものについては、プログラム名と簡単な概要を取り上げた。

【2016年（平成28年）度】

<金沢大学>

- 北陸高度がんプロチームがん専門薬剤師養成コース 【連携】（*）
 - ・薬学系において広く臨床能力を高めるために新設された6年制学士課程卒業後の学生を対象に、がん薬物治療に特化した専門能力をたかめるための4年制博士課程の充実をはかる一環として設定した。

<名古屋市立大学>

- 東海地区での新しい実務実習実施検討ワークショップ 【連携】（*）
 - ・東海地区7薬系大学と各県薬剤師会、病院薬剤師会、東海地区調整機構の連携によって、2019年度から実施される改訂コアカリ対応の実務実習について検討するワークショップを実施した。
- 改訂コアカリに対応した新しい医療人教育手法の開発
 - ・改訂コアカリへの対応として、臨床準備教育を見直し、新しいより効果的な薬剤師の実践

臨床能力開発に向けた以下の内容の研修を実施した。参加者は、4年次生85名だった。

○ 新しい地域医療を学ぶ実践学習プログラム

- ・学部生を対象として、1年次生からの医学部、薬学部、看護学部連携による多職種連携教育を基盤に3年次生から6年次生を中心にさらに実践的な教育効果の高い研修プログラムの開発を行った。

<京都大学>

○ 早期体験学習

- ・1年次において京都府薬剤師会、近隣の薬局および京都大学医学部附属病院薬剤部と連携し、早期体験学習を行った。

<岡山大学>

○ 岡山県薬剤師研修協議会講演会（*）

- ・岡山県薬剤師会、岡山県病院薬剤師会等の職能関係諸団体、就実大学薬学部とともに岡山県薬剤師研修協議会を構成しており、この協議会による講演会を本学薬学部で実施した。

○ 薬剤師教育の改善を地域の薬剤師職能団体とともに推進する事業（*）

- ・岡山大学薬学部／大学院医歯薬学総合研究科（薬学系）では、今後の薬剤師のあり方や方向性などに関する情報を広く集めることに取り組んでいる。その一つとして、岡山県薬剤師会、岡山県病院薬剤師会の協力を得て特別講演会を実施した。
- ・講演会、は岡山大学薬学部／病院薬剤部の教員／学生／職員のみならず、県薬剤師会／病院薬剤師会を通じて薬学に関連した全ての方々に開放した。

○ 日本薬学会・日本薬剤師会・日本病院薬剤師会中四国支部学術大会シンポジウム

「文科省特別経費事業・先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンス教育プログラムの共同開発（H22-H27年度）【連携】（*）

- ・国立14大学が参画し第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンス教育プログラムの共同開発」事業の成果の普及に向けて中四国国立3大学（岡山大学、広島大学、徳島大学）における事業内容と成果を紹介するとともに、今後本事業を中四国地域の薬剤師会、病院薬剤師会と連携して推進することについて、方向性の提案やこれに関する議論を行った。

○ 鳥取県薬剤師会との連携事業（*）

- ・学部生を対象として、2015及び2016年度に鳥取県薬剤師会・鳥取県共催サマーセミナーに2日間参加する研修を実施した。今後、鳥取県および同薬剤師会と連携した薬剤師教育・研修を展開するための基礎とする。

○ 岡山県北部の医療機関との連携による地域医療関係事業（*）

- ・学部生を対象として、県北の複数の病院の協力のもとに岡山県北部真庭地区2次医療圏における川崎医大救急総合診療医学講座を中心とした地域医療セミナーに全6回参加する研修を実施した。

○「臨床薬学演習Ⅰ」の実施（＊）

- ・学部生を対象として、地域医療参加型授業として岡山大学近隣の3施設の開業医院にて正規科目「臨床薬学演習Ⅰ」を実施した。患者の診察、電子カルテへの問診の記録、バイタルサインチェック、レントゲン検査、心電図・心腹部エコーや、デイケアサービスでの診療、リハビリ室の診療・理学療法作業療法体験、訪問診療・在宅診療への同行、小学校の健康診断助手、医師会懇話会参加、薬物治療の過程でのチーム医療などを、医師指導のもとでの実地臨床体験として行った。

○川崎医大現代医学教育博物館見学及び倉敷芸術科学大学芸術学部学生との交流（＊）

- ・川崎医大現代医学教育博物館見学及び倉敷芸術科学大学芸術学部学生との交流を実施し、医療知識の習得としてだけでなく医療人としての自覚を促す観点からも重要な機会となった。

【2017年（平成29年）度】

<東北大学>

○スーパージェネラリスト・ファーマシストの養成教育事業

- ・医療の質の向上及び医療安全の確保の観点から、チーム医療において薬剤の専門化として主体的に薬物治療に参画し貢献できる薬剤師を養成するための教育プログラムの構築を図った。認知症サポーター養成講座、禁煙・防煙指導講座、がんコミュニケーション講座を開催した。

<千葉大学>

○実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム（＊）

- ・文科省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組として実施していたプログラムを2017年度も継続して実施した。千葉県薬剤師会、千葉県病院薬剤師会、医薬品適正使用推進機構と連携して、学部生のアドバンスト教育を千葉県内2薬科大学3大学が特徴的に有する教育プログラムと融合した教育を行った。
- ・大学間で相互に受講でき、単位を認定できる取組となっている

○薬学部公開講座（＊）

- ・2019年度2回、千葉県薬剤師会、千葉県病院薬剤師会、と連携して千葉大学薬学部公開講座「千葉の医療を識る」を開催した。

<富山大学>

○高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース

- ・2017年度～2021年度、富山県病院薬剤師会・富山県薬剤師会との連携により、「高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース」をインテンシブコースとして大学主催で地域の薬剤師への教育活動として開講した。

<金沢大学>

○ アポテカプロジェクト (*)

- ・金沢大学と白山市、コメヤ薬局（白山市）は、高齢化が進んだ地方の中山間地域に薬局を開設し、地域住民の未病や健康維持、地域医療を支える薬剤師の養成に取り組む産学連携の「アポテカプロジェクト」を開始した。
- ・プロジェクトは、文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」の一環として進められ、薬剤師を目指す学生に中山間地域医療への理解や課題解決の取り組みを学ぶインターンシップを開発・実施した。
- ・人材の地域定着を目指したもので、年度内に複数回トライアルを実施し、課題や問題点などを検証した上で、新年度から本格的に実施する。

○ NPOアカンサス薬局における学生実習

- ・NPOアカンサス薬局においてすべての学生が薬局実務実習を実施した。

<静岡県立大学>

○ 薬学会東海支部講演会 【連携】

- ・日本薬学会東海支部に所属する大学が研究者を招聘し、日本薬学会の資金的援助を得て薬学会東海支部講演会を公開講演会として実施した。

○ 東海薬学教育コンソーシアム 【連携】

- ・東海地区調整機構に所属する薬系7大学が主体となり、各県薬剤師会、病院薬剤師会と連携して、新しい臨床薬学教育の推進のためのコンソーシアムを運営している。

○ 静岡健康・長寿学術フォーラム

- ・静岡県、静岡県立大学、静岡大学、浜松医科大学の4団体が協力して、大きな社会的課題である「健康長寿社会」の構築に関する最新の学術研究成果の発表を行い、その成果を県民に還元した。学部生及び大学院生が研究成果をポスターで発表した。

○ 薬剤師生涯学習支援講座 【連携】

- ・1年に4回、名古屋市立大学との共催で、薬剤師業務に役立つ大学発の薬学関連講座をインターネット回線をつないで実施している。

<名古屋市立大学>

○ 東海薬剤師生涯学習センター特別講義（公開講義）

- ・日本薬剤師会・山本会長による特別講義「薬剤師の将来を支える皆さんへー社会で真に評価される薬剤師を目指してー」を実施した。本講義は大学の薬学科4年生の授業の一部としてセンターが主催し、愛知県薬剤師会と連携し薬学実務実習の一環として薬学実務実習指導薬剤師を中心に広報して公開講義とした。
- ・実務実習を行っている実習生、実務実習事前学習履修者約200名、実習を指導する薬局薬剤師80名、その他関係者合わせて約300名の参加があった。

○ 東海薬学教育コンソーシアム **【連携】**

- ・名古屋市立大学に拠点を置き、東海地区調整機構に所属する薬系7大学が主体となり、各県薬剤師会、病院薬剤師会と連携して、新しい臨床薬学教育の推進のためのコンソーシアムを運営している。

<京都大学>

○ 日本病院薬剤師会後援特別講演会

- ・日本病院薬剤師会との連携により、市立敦賀病院薬剤部長・荒木先生を講師とする「病院薬剤師の業務について－薬剤師の専門性を最大限に生かそう」と題した日本病院薬剤師会後援特別講演会を実施した。現在の医療行政と薬剤師の位置づけ、病院薬剤師の業務等について講演いただき、約40名の学生の参加があった。

<岡山大学>

○ 先進的薬局在宅業務教員研修 **（*）**

- ・次年度の授業化を視野に入れ、在宅医療において薬学的管理を積極的に実施している薬局において、教員が研修を行った。大阪府において在宅業務を中心に展開している薬局と、訪問に行っている有料高齢者施設ならびに個人宅を訪問・見学した。

○ 薬学部進学セミナー **（*）**

- ・鳥取県及び鳥取県薬剤師会と連携して、公開授業などの薬学部進学セミナーを開催した。多数の高校生及び保護者の参加があった。

○ 地域中核病院見学研修 **（*）**

- ・進路に病院薬剤部を視野に入れている山陰地区出身学生を対象として、学部生対象に先進的な機器を導入し最先端医療における薬剤業務を展開している地域中核病院である島根県・松江市民病院において見学研修を行った。

○ 川崎医大現代医学教育博物館見学及び倉敷芸術科学大学芸術学部学生との交流

- ・川崎医大現代医学教育博物館見学及び倉敷芸術科学大学芸術学部学生との交流を実施し、医療知識の習得としてだけでなく医療人としての自覚を促す観点からも重要な機会となった。

○ 検体測定に関する公開講演会 **（*）**

- ・岡山県薬剤師研修協議会の事業として、「検体測定は地域住民を救い、薬剤師も救う！-薬局薬剤師による検体測定の意義-」と題する公開講演会を実施した。

○ サプリメント等の臨床的エビデンスに関する公開講座 **（*）**

- ・岡山県薬剤師研修協議会の事業として、DHC研究顧問である医師を講師として「薬剤師は地域住民の健康維持・増進に何ができるのか？ -健康食品・サプリメントの有用性に関するエビデンスを知る-」と題する公開講座を実施した。

○ 保険薬局における働き方改革に関する公開講演会 **（*）**

- ・岡山県薬剤師研修協議会の事業として、「大変革する保険薬局薬剤師の働き方 -なぜ成すべき業務に集中できるのか-」と題した公開講演会を企画し、パートナーを採用して薬剤師

と協働することによって、薬剤師の業務負担を大幅に減少し、薬剤師が在宅業務に集中できるようにしている薬局から薬剤師とそれを支えているパートナーを招いて公開講演会を実施した。

- がん領域における先導的薬剤師を目指す公開講演会（*）
 - ・岡山県薬剤師研修協議会の事業として、岡山大学病院の総合診療内科で漢方外来を行っている医師による「癌治療における漢方」と題した講演、がんプロ側から「免疫チェックポイント阻害薬の作用機序・PD-1の基礎研究から」と題する講演を行った。
- プライマリケア領域で活躍する先導的薬剤師養成に関する公開講演会（*）
 - ・岡山県薬剤師研修協議会の事業として、第1回日本臨床薬剤師シミュレーション教育研究会との共催により、薬学生・薬剤師向け公開講座として、プライマリケア領域で活躍する先導的薬剤師養成に関わる公開講演を実施した。
- 検体plusバイタル測定講習会（*）
 - ・岡山県薬剤師研修協議会の事業として、検体測定に関する公開講演会と学部生、大学院生、薬剤師を対象とした講習会を実施した。

<広島大学>

- 遺伝子検査セミナー
 - ・薬局薬剤師と大学の共同により、遺伝子検査セミナーを開催し、一般市民への啓発活動を実施した。

<九州大学>

- シンポジウム「大学院4年制博士課程に望まれる薬学研究を考える」【連携】
 - ・大学院博士課程に望まれる薬学研究を考えるために、大学教員と学生、病院・薬局の薬剤師との活発な意見交換を目的として、九州地区の国立大学法人3大学（九州大学、熊本大学、長崎大学）合同シンポジウムを開催した。

<熊本大学>

- レギュラトリーサイエンスプログラム（*）
 - ・本学大学院教育における「高度医療人養成・レギュラトリーサイエンスプログラム」に関連した独自の取組として、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構(PMDA)との大学院連携講座「レギュラトリーサイエンス学」を設置した。
 - ・大学院講義「トランスレーショナル基礎講座」として、本学医学部附属病院総合臨床研究部研究展開センターやPMDAから講師を招聘し、特許申請・権利化、ベンチャー企業支援、前臨床試験のデザインと企業との連携、PMDAの組織および業務棟について学ぶ機会を提供した。
- 日本腎臓病薬物療法学会認定セミナー
 - ・福岡県薬剤師会との協働で2年間で8回「日本腎臓病薬物療法学会認定セミナー」を開催した。

【2018年（平成30年）度】

<東北大学>

○ スーパージェネラリスト・ファーマシストの養成教育事業

- ・医療の質の向上及び医療安全の確保の観点から、チーム医療において薬剤の専門化として主体的に薬物治療に参画し貢献できる薬剤師を養成するための教育プログラムの構築を図った。

<千葉大学>

○ 実践社会薬学の確立と発展に資する薬剤師養成プログラム（*）

- ・文科省「大学間連携共同教育推進事業」選定取組として実施していたプログラムを2018年度も継続して実施した。千葉県薬剤師会、千葉県病院薬剤師会、医薬品適正使用推進機構と連携して、学部生のアドバンスト教育を千葉県内2薬科大学3大学が特徴的に有する教育プログラムと融合した教育を行った。
- ・大学間で相互に受講でき、単位を認定できる取組となっている。

<富山大学>

○ 高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース

- ・2017年度～2021年度、富山県病院薬剤師会・富山県薬剤師会との連携により、「高齢化した地域医療を個別化医療で支えることができる高度薬剤師養成コース」をインテンシブコースとして大学主催で地域の薬剤師への教育活動として開講した。

<金沢大学>

○ 北信がんプロ（*）

- ・文部科学省の大学間の連携による「がん医療人材養成拠点」において、各大学の特色を生かした教育プログラムを構築し、がん医療の新たなニーズに対応できる優れた「がん専門医療人材（がんプロフェッショナル）」を養成することで、我が国におけるがん医療の一層の推進を目的として実施している。

○ アポテカプロジェクト：地域薬局レジデント体験（*）

- ・金沢大学と白山市、コメヤ薬局（白山市）は、高齢化が進んだ地方の中山間地域に薬局を開設し、地域住民の未病や健康維持、地域医療を支える薬剤師の養成に取り組む産学連携の「アポテカプロジェクト」を実施した。
- ・プロジェクトは、文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業」の一環として進められ、薬剤師を目指す学生に中山間地域医療への理解や課題解決の取り組みを学ぶインターンシップを開発・実施した。
- ・人材の地域定着を目指したもので、年度内に複数回トライアルを実施し、課題や問題点などを検証した上で、新年度から本格的に実施する。

○ NPOアカンサス薬局における学生実習

- ・NPOアカンサス薬局においてすべての学生が薬局実務実習を実施した。

<静岡県立大学>

○ 薬学会東海支部講演会【連携】

- ・日本薬学会東海支部に所属する大学が研究者を招聘し、日本薬学会の資金的援助を得て薬学会東海支部講演会を公開講演会として実施した。

○ 東海薬学教育コンソーシアム【連携】

- ・東海地区調整機構に所属する薬系7大学が主体となり、各県薬剤師会、病院薬剤師会と連携して、新しい臨床薬学教育の推進のためのコンソーシアムを運営している。

○ 静岡健康・長寿学術フォーラム

- ・静岡県、静岡県立大学、静岡大学、浜松医科大学の4団体が協力して、大きな社会的課題である「健康長寿社会」の構築に関する最新の学術研究成果の発表を行い、その成果を県民に還元した。学部生及び大学院生が研究成果をポスターで発表した。

○ 薬剤師生涯学習支援講座【連携】

- ・1年に4回、名古屋市立大学との共催で、薬剤師業務に役立つ大学発の薬学関連講座をインターネット回線ですべて実施している。

○ 静岡救命連携演習

- ・日本禁煙科学会、薬剤師会、歯科衛生士会、医師会、看護師会、静岡県、静岡市、県教育委員会と共催で、禁煙アドバイザー講習会を学内で開催し、禁煙指導に必要な知識を習得してもらい、禁煙指導士の資格を取得してもらっている。
- ・2019年度から必修となる。

○ 健康フェア

- ・静岡市、くすり・たべもの・からだの協議会、菊川市、川根本町、などとの共催により、市民に対する健康に関する講演、健康測定会（血圧、簡易心電図など）、お薬相談、健康相談などを学生が中心となり、教員や地域の薬剤師、市役所の方などとともに実施した。
- ・薬、食、看護の学生が協力し、大学や実習先で得た知識を活用した地域貢献であり、年15回程度行っている。

○ モバイルファーマシーを活用した活動

- ・菊川市、川根本町、県薬剤師会などとの共催によって、モバイルファーマシーを地域に派遣し、教員や地元薬剤師の指導のもと、病院薬局実習を終了した学生が残薬調査などを行った。実臨床での経験を積めるフィールドワークであり、モバイルファーマシーの認知度を高め、災害時あるいは平時には在宅医療に役立てる活動である。

<名古屋市立大学>

○ 東海薬学教育コンソーシアム【連携】

- ・名古屋市立大学に拠点を置き、東海地区調整機構に所属する薬系7大学が主体となり、各

県薬剤師会、病院薬剤師会と連携して、新しい臨床薬学教育の推進のためのコンソーシアムを運営している。

- ・ 2018年度は、1) 新しい実務実習実施検討WS、2) FD講演会、3) 実務実習のあり方検討会、4) 実務実習支援WEB担当者WS、5) 薬学実務実習情報共有と課題検討シンポジウム(第4回日本薬学教育学会大大阪プレ企画)を実施した。

<京都大学>

○ 日本病院薬剤師会後援特別講演会

- ・ 日本病院薬剤師会との連携により、専務理事(元国立国際医療研究センター病院薬剤部長)・栗原先生を講師とする「病院薬剤師への招待ー薬学の専門性を最大限に生かそう!」と題した日本病院薬剤師会後援特別講演会を実施した。現在の医療行政と薬剤師の位置づけ、病院薬剤師の業務等について講演いただき、約40名の学生の参加があった。

<岡山大学>

○ 高度先導的薬剤師養成プログラム事業・岡山県薬剤師研修協議会共催講演会 (*)

- ・ 一般社団法人日本老年薬学会理事の川添氏を講師として招き、今後薬剤師が高齢者医療へどのような形で関わられるのかについての講演を実施した。

<広島大学>

○ 遺伝子検査セミナー

- ・ 薬局薬剤師と大学の共同により、遺伝子検査セミナーを開催し、一般市民への啓発活動を実施した。

<徳島大学>

○ 徳島大学臨床薬剤師交流ネットワーク (TPN)

- ・ 徳島県薬剤師会、徳島県病院薬剤師会との連携のより、臨床で活躍中の医療関係者(医師、薬剤師、看護師等)を講師として招き、地域薬剤師と学生の身近な勉強会として、また長期実務実習を行う市中の病院・薬局との情報交換の場として参加型研修会を年数回開催している。
- ・ 徳島大学薬学部を拠点として県薬剤師会、県病院薬剤師会と連携し、地域薬剤師への生涯学習の場として先進的薬剤業務の知識習得をサポートするだけでなく、学生が地域薬剤師と共に学ぶことによって刺激を受け、就学意識の向上および生涯学習の重要性を認識させることにつなげている。

<九州大学>

○ シンポジウム「アドバンスト教育研究プログラムのグローバルな展開」 【連携】

- ・ 大学院博士課程に望まれる薬学研究を考えるために、大学教員と学生、病院・薬局の薬剤師との活発な意見交換を目的として、九州地区の国立大学法人3大学(九州大学、熊本大

学、長崎大学) 合同シンポジウムを開催した。

- ・本学からは、九州大学の取り組みについて担当教員から紹介後、6年次生が「九州大学薬学部臨床薬学科における国際研修；台湾短期留学プログラム」、「地域薬剤師会との共同事業；アドヒアランス向上を目指した節薬バッグ運動」というタイトルで発表した。各大学の海外研修や地域における取り組みについて情報共有を行い、本事業の発展と、高度先導的薬剤師の育成に向けて活発な議論を行うことができた。

<熊本大学>

○ レギュラトリーサイエンスプログラム (*)

- ・本学大学院教育における「高度医療人養成・レギュラトリーサイエンスプログラム」に関連した独自の取組として、独立行政法人 医薬品医療機器総合機構(PMDA)との大学院連携講座「レギュラトリーサイエンス学」を設置した。
 - ・大学院講義「トランスレーショナル基礎講座」として、本学医学部附属病院総合臨床研究部研究展開センターやPMDAから講師を招聘し、特許申請・権利化、ベンチャー企業支援、前臨床試験のデザインと企業との連携、PMDAの組織および業務棟について学ぶ機会を提供した。
- 日本腎臓病薬物療法学会認定セミナー
- ・福岡県薬剤師会との協働により2年間で8回「日本腎臓病薬物療法学会認定セミナーを開催した。

【2019年（平成31年／令和元年）度】

<東北大学>

○ スーパージェネラリスト・ファーマシストの養成教育事業

- ・医療の質の向上及び医療安全の確保の観点から、チーム医療において薬剤の専門化として主体的に薬物治療に参画し貢献できる薬剤師を養成するための教育プログラムの構築を図った。

<金沢大学>

○ がん高度医療人材養成事業

- ・石川県病院薬剤師会との連携により、学生・大学院生及び薬剤師を対象としてがん薬物療法における最新知識および臨床現場からのエビデンス発信スキルの修得を目的に研修会等を実施した。

<静岡県立大学>

○ 薬学会東海支部講演会 【連携】

- ・日本薬学会東海支部に所属する大学が研究者を招聘し、日本薬学会の資金的援助を得て薬学会東海支部講演会を公開講演会として実施した。

○ 東海薬学教育コンソーシアム 【連携】

- ・東海地区調整機構に所属する薬系7大学が主体となり、各県薬剤師会、病院薬剤師会と連携して、新しい臨床薬学教育の推進のためのコンソーシアムを運営している。

○ 静岡健康・長寿学術フォーラム

- ・静岡県、静岡県立大学、静岡大学、浜松医科大学の4団体が協力して、大きな社会的課題である「健康長寿社会」の構築に関する最新の学術研究成果の発表を行い、その成果を県民に還元した。学部生及び大学院生が研究成果をポスターで発表した。

○ 薬剤師生涯学習支援講座 【連携】

- ・1年に4回、名古屋市立大学との共催で、薬剤師業務に役立つ大学発の薬学関連講座をインターネット回線をつないで実施している。

○ 静岡救命連携演習

- ・日本禁煙科学会、薬剤師会、歯科衛生士会、医師会、看護師会、静岡県、静岡市、県教育委員会と共催で、禁煙アドバイザー講習会を学内で開催し、禁煙指導に必要な知識を習得してもらい、禁煙指導士の資格を取得してもらっている。
- ・2019年度から必修科目とした。

○ 健康フェア

- ・静岡市、くすり・たべもの・からだの協議会、菊川市、川根本町、などとの共催により、市民に対する健康に関する講演、健康測定会（血圧、簡易心電図など）、お薬相談、健康相談などを学生が中心となり、教員や地域の薬剤師、市役所の方などもともに実施した。
- ・薬、食、看護の学生が協力し、大学や実習先で得た知識を活用した地域貢献であり、年15回程度行っている。

○ モバイルファーマシーを活用した活動

- ・菊川市、川根本町、県薬剤師会などとの共催によって、モバイルファーマシーを地域に派遣し、教員や地元薬剤師の指導のもと、病院薬局実習を終了した学生が残薬調査などを行った。実臨床での経験を積めるフィールドワークであり、モバイルファーマシーの認知度を高め、災害時あるいは平時には在宅医療に役立てる活動である。

<名古屋市立大学>

○ 東海薬学教育コンソーシアム 【連携】 (*)

- ・名古屋市立大学に拠点を置き、東海地区調整機構に所属する薬系7大学が主体となり、各県薬剤師会、病院薬剤師会と連携して、新しい臨床薬学教育の推進のためのコンソーシアムを運営している。

<京都大学>

○ 日本病院薬剤師会後援特別講演会

- ・日本病院薬剤師会との連携により、京都府病院薬剤師会会長（京都府立病院薬剤部長）・四方先生を講師とする「病院薬剤師への招待－薬学の専門性を最大限に生かそう!」と題し

た日本病院薬剤師会後援特別講演会を実施した。約40名の学生の参加があった。

<岡山大学>

○ 高度先導的薬剤師養成プログラム事業・岡山県薬剤師研修協議会共催講演会

- ・国薬剤師・在宅療養支援連絡会前会長の大澤氏を講師として招き、今後薬剤師が高齢者医療へどのような形で関われるのかについての講演を実施した。

<広島大学>

○ 遺伝子検査セミナー

- ・薬局薬剤師と大学の共同により、遺伝子検査セミナーを開催し、一般市民への啓発活動を実施した。
- ・2019年度は漢方薬局も加え、東洋医学的観点からの生活習慣指導も行った。

<徳島大学>

○ 徳島大学臨床薬剤師交流ネットワーク (TPN)

- ・徳島県薬剤師会、徳島県病院薬剤師会との連携のより、臨床で活躍中の医療関係者（医師、薬剤師、看護師等）を講師として招き、地域薬剤師と学生の身近な勉強会として、また長期実務実習を行う市中の病院・薬局との情報交換の場として参加型研修会を開催している。2019年度は1回開催した。
- ・徳島大学薬学部を拠点として県薬剤師会、県病院薬剤師会と連携し、地域薬剤師への生涯学習の場として先進的薬剤業務の知識習得をサポートするだけでなく、学生が地域薬剤師と共に学ぶことによって刺激を受け、就学意識の向上および生涯学習の重要性を認識させることにつなげている。

<九州大学>

○ シンポジウム「アドバンスト教育研究プログラムのグローバルな展開」

- ・2019年度は開催しなかった。

【2020年（令和2年）度】

<金沢大学>

○ がん高度医療人材養成事業

- ・石川県病院薬剤師会との連携により、学生・大学院生及び薬剤師を対象としてがん薬物療法における最新知識および臨床現場からのエビデンス発信スキルの修得を目的に研修会等を実施した。

<静岡県立大学>

○ 薬学会東海支部講演会【連携】

- ・日本薬学会東海支部に所属する大学が研究者を招聘し、日本薬学会の資金的援助を得て薬

学会東海支部講演会を公開講演会として実施した。

○ 東海薬学教育コンソーシアム 【連携】

・東海地区調整機構に所属する薬系7大学が主体となり、各県薬剤師会、病院薬剤師会と連携して、新しい臨床薬学教育の推進のためのコンソーシアムを運営している。

○ 静岡健康・長寿学術フォーラム

・静岡県、静岡県立大学、静岡大学、浜松医科大学の4団体が協力して、大きな社会的課題である「健康長寿社会」の構築に関する最新の学術研究成果の発表を行い、その成果を県民に還元した。学部生及び大学院生が研究成果をポスターで発表した。

○ 薬剤師生涯学習支援講座 【連携】

・1年に4回、名古屋市立大学との共催で、薬剤師業務に役立つ大学発の薬学関連講座をインターネット回線をつないで実施している。

○ 静岡救命連携演習

・日本禁煙科学会、薬剤師会、歯科衛生士会、医師会、看護師会、静岡県、静岡市、県教育委員会と共催で、禁煙アドバイザー講習会を学内で開催し、禁煙指導に必要な知識を習得してもらい、禁煙指導士の資格を取得してもらっている。

・2019年度から必修科目とした。

○ 健康フェア

・静岡市、くすり・たべもの・からだの協議会、菊川市、川根本町、などとの共催により、市民に対する健康に関する講演、健康測定会（血圧、簡易心電図など）、お薬相談、健康相談などを学生が中心となり、教員や地域の薬剤師、市役所の方などもともに実施した。

・薬、食、看護の学生が協力し、大学や実習先で得た知識を活用した地域貢献であり、年15回程度行っている。

○ モバイルファーマシーを活用した活動

・菊川市、川根本町、県薬剤師会などとの共催によって、モバイルファーマシーを地域に派遣し、教員や地元薬剤師の指導のもと、病院薬局実習を終了した学生が残薬調査などを行った。実臨床での経験を積めるフィールドワークであり、モバイルファーマシーの認知度を高め、災害時あるいは平時には在宅医療に役立てる活動である。

<名古屋市立大学>

○ 東海薬学教育コンソーシアム 【連携】 (*)

・名古屋市立大学に拠点を置き、東海地区調整機構に所属する薬系7大学が主体となり、各県薬剤師会、病院薬剤師会と連携して、新しい臨床薬学教育の推進のためのコンソーシアムを運営している。

・2020年度は、1) FDシンポジウム、2) 情報交換会、3) 運営会議をオンライン等で実施した。例年実施してきた東海地区の薬学部教員FDワークショップなどは新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。

<京都大学>

○ 日本病院薬剤師会後援特別講演会

- ・日本病院薬剤師会との連携により、大阪赤十字病院薬剤部長・小林先生を講師とする「病院薬剤部の役割について～見識を深め、可能性をひろげよう～」と題した病院薬剤師の業務内容や活動等に関する日本病院薬剤師会後援特別講演会を実施した。約40名の学生の参加があった。

<岡山大学>

○ 病院薬剤師に関する講演会

- ・岡山大学病院薬剤部・薬剤部長・教授千堂先生を講師とする「病院薬剤師への招待～チーム医療の中で薬のエキスパートを目指して～」と題した病院薬剤師業務、やりがい、今後の方向性などについて最新の知識・動向に関する講演を実施した。

<広島大学>

○ 遺伝子検査セミナー

- ・薬局薬剤師と大学の共同により、遺伝子検査セミナーを開催し、一般市民への啓発活動を実施した。
- ・2019年度は漢方薬局も加え、東洋医学的観点からの生活習慣指導も行った。

<山陽小野田市立山口東京理科大学>

○ 学術と地域文化1（講義）での講演

- ・「目指せ！かかりつけ薬剤師」をテーマに「医薬分業のルーツと薬剤師」、「薬剤師・薬局を取り巻く状況と当面の課題」、「かかりつけ薬剤師・薬局の役割」についての公開講演を実施した。

○ 薬学的サイエンスカフェ

- ・1年次生の早期体験学習の一環として、現役薬剤師と薬剤師業務や環境、最近の話題などを身近に情報交換をする機会を提供した。

<九州大学>

○ シンポジウム「アドバンスト教育研究プログラムのグローバルな展開」 **【連携】**

- ・大学院生・社会人を対象とした海外連携医療機関での臨床研究や地域医療に関する研修や先進的な地域医療インターンシップ等を開発・実施するために、九州地区の国立大学法人3大学（九州大学、熊本大学、長崎大学）合同シンポジウムを開催した。
- ・各大学の地域医療における取り組みについて情報共有や討議を行い、社会のニーズに応える高度な地域医療を担うことができる高度先導的薬剤師の育成を図った。

【2021年（令和3年）度】

<富山大学>

○ 認定実務実習指導ワークショップ 【連携】

- ・レベルの高い実務実習を実施するためには、指導薬剤師の養成が不可欠であり、薬学教育協議会及び北陸地区調整機構が主催する認定実務実習指導薬剤師養成のためのワークショップでは、金沢大学と共に多くのエフォートを割いている。

<金沢大学>

○ がん高度医療人材養成事業

- ・石川県病院薬剤師会との連携により、学生・大学院生及び薬剤師を対象としてがん薬物療法における最新知識および臨床現場からのエビデンス発信スキルの修得を目的に研修会等を実施した。

<静岡県立大学>

○ 薬学会東海支部講演会 【連携】

- ・日本薬学会東海支部に所属する大学が研究者を招聘し、日本薬学会の資金的援助を得て薬学会東海支部講演会を公開講演会として実施した。

○ 東海薬学教育コンソーシアム 【連携】

- ・東海地区調整機構に所属する薬系7大学が主体となり、各県薬剤師会、病院薬剤師会と連携して、新しい臨床薬学教育の推進のためのコンソーシアムを運営している。

○ 静岡健康・長寿学術フォーラム

- ・静岡県、静岡県立大学、静岡大学、浜松医科大学の4団体が協力して、大きな社会的課題である「健康長寿社会」の構築に関する最新の学術研究成果の発表を行い、その成果を県民に還元した。学部生及び大学院生が研究成果をポスターで発表した。

○ 薬剤師生涯学習支援講座 【連携】

- ・1年に4回、名古屋市立大学との共催で、薬剤師業務に役立つ大学発の薬学関連講座をインターネット回線をつないで実施している。

○ 静岡救命連携演習

- ・日本禁煙科学会、薬剤師会、歯科衛生士会、医師会、看護師会、静岡県、静岡市、県教育委員会と共催で、禁煙アドバイザー講習会を学内で開催し、禁煙指導に必要な知識を習得してもらい、禁煙指導士の資格を取得してもらっている。
- ・2019年度から必修科目とした。

○ 健康フェア

- ・静岡市、くすり・たべもの・からだの協議会、菊川市、川根本町、などとの共催により、市民に対する健康に関する講演、健康測定会（血圧、簡易心電図など）、お薬相談、健康相談などを学生が中心となり、教員や地域の薬剤師、市役所の方などもともに実施した。
- ・薬、食、看護の学生が協力し、大学や実習先で得た知識を活用した地域貢献であり、年15

回程度行っている。

○ モバイルファーマシーを活用した活動

- ・菊川市、川根本町、県薬剤師会などとの共催によって、モバイルファーマシーを地域に派遣し、教員や地元薬剤師の指導のもと、病院薬局実習を終了した学生が残薬調査などを行った。実臨床での経験を積めるフィールドワークであり、モバイルファーマシーの認知度を高め、災害時あるいは平時には在宅医療に役立てる活動である。

<名古屋市立大学>

○ 東海薬学教育コンソーシアム **【連携】**

- ・名古屋市立大学に拠点を置き、東海地区調整機構に所属する薬系7大学が主体となり、各県薬剤師会、病院薬剤師会と連携して、新しい臨床薬学教育の推進のためのコンソーシアムを運営している。
- ・2021年度は、1) 学会でのシンポジウム共催、2) FDワークショップを実施した。

<京都大学>

○ 日本病院薬剤師会後援特別講演会

- ・日本病院薬剤師会との連携により、名古屋市立大学病院薬剤部長・木村先生を講師とする「病院薬剤師への招待～チーム医療の中で薬のエキスパートを目指して～」と題した病院薬剤師業務、やりがい、今後の方向性などについての日本病院薬剤師会後援特別講演会を実施した。約20名の学生の参加があった。

<岡山大学>

○ 病院薬剤師に関する講演会

- ・岡山県病院薬剤師会会長、岡山赤十字病院 薬剤部長の森先生を講師とする病院薬剤師の魅力、内容：病院薬剤師業務、やりがい、今後の方向性などについて最新の知識・動向に関する講演を実施した。

<広島大学>

○ 遺伝子検査セミナー

- ・薬局薬剤師と大学の共同により、遺伝子検査セミナーを開催し、一般市民への啓発活動を実施した。
- ・2021年度は漢方薬局も加え、東洋医学的観点からの生活習慣指導も行った。

<山陽小野田市立山口東京理科大学>

○ 学術と地域文化1（講義）での講演

- ・「地域医療における薬剤師の役割～薬剤師が地域・地方を変える」と題した公開講演を実施した。

<九州大学>

○ 早期体験学習

- ・地域に求められる薬剤師について理解し、今後の学修に対するモチベーション向上を目的として、臨床薬学科2年生を対象とした早期体験学習の一環として薬局見学や在宅医療に関する講義を福岡県薬剤師会と共同で実施し、薬局薬剤師と学部学生との質疑応答や意見交換を行った。

2. 学部卒業生、大学院博士課程修了者と連携した取組や教育研究プログラム及び卒業生、修了者を支援する取組や教育研究プログラム

国公立19大学は、全国の北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中・四国及び九州・山口の8地区に位置する。それぞれの大学は、各地域において薬学教育研究の中核大学として、薬剤師会や病院薬剤師会、さらには私立薬系大学との連携によって、優れた薬学人材の育成や、地域医療の発展に尽力・貢献してきた。各大学のこういった地域での教育研究活動とその評価については、薬学教育評価機構が実施した第三者評価の自己・点検評価書及び評価報告書に詳しい（中項目8. 社会連携・社会貢献、【基準8-1】教育研究活動を通じて、社会と連携し、社会に貢献していること）。ここでは、それらの中から、2016年度（平成28年）以降の本事業に関連する地域における教育研究活動、すなわち、参画大学が各地区（全国8地区）で他大学や病院・薬局実務実習地区調整機構、薬剤師会、病院薬剤師会等との連携によって実施された取組や教育研究プログラムについて報告する。

以下、参画大学の事業成果報告をもとに、年度毎に、実施大学別に教育研究プログラムとその概要をまとめた。事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。なお、プログラム名に（*）を付したものについては、別添の資料が提出されているが、紙面の関係上本報告書には掲載していない。これらについては、本事業のホームページあるいは各実施大学のホームページ等で公開しているので、参照いただきたい。

【2017年（平成29年）度】

<東北大学>

- ・東北大学薬学研究科・薬学部の同窓会である東北大学薬学同窓会に「東北大学薬剤師ネットワーク」を設立し、東北大学卒の薬剤師の交流の一つの場とすることになっている。本ネットワークは、卒業生の薬剤師活動、生涯教育等を支援し、さらに薬剤師を目指す学部生を含めた交流を活発化することを目的としている。
- ・東北大学大学院薬学研究科主催の地域薬剤師研修会を開催して、卒業生の生涯教育を支援するとともに、地域薬剤師の交流の場としている。

<富山大学>

- ・富山県内の病院・薬局に就職をした学生については、事前学習の折に非常勤講師をお願いするようにしている。また、卒業生に社会人として博士課程に入学してもらい、在學生にとっても良好な環境を築くよう努めている。
- ・本学薬学部同窓会である薬窓会にて名簿の管理をしている。

<金沢大学>

- ・学部4年生の講義科目「薬物治療演習」の実施内容を「薬物治療検討会」として卒業生並びに地域薬剤師に公開している。
- ・「薬物治療連携研究会」における活動を通して卒業生の研修や研究サポートを行っている。
(*)

<名古屋市立大学>

- ・第2回日本薬学教育学会大会において、東海地区7大学（名市大薬、岐阜薬科大学、静岡県立大学薬、名城大薬・愛知学院大薬 金城学院大薬、鈴鹿医療科学大学）から、病院、薬局、企業などさまざまな領域で活躍している6年制薬学部卒業生を集め、新しい薬学部6年制教育が実際の職場で役に立っているかどうかを検討するシンポジウムを開催した。各大学の卒業生による発表の後、シンポジウム参加者との質疑応答などを通して、薬学部教育の成果を確認するとともに課題や今後への期待が提言された。【連携】
- ・日本薬学教育学会大会東海地区特別企画シンポジウム「薬学6年制卒業生からの薬学教育への提言」を実施した。

<岐阜薬科大学>

- ・岐阜薬科大学学部の卒業とともに、同窓会に入会することになっており、この組織を通して、交流がある。

<岡山大学>

- ・薬学セミナーにおいて、約半数の学外講師は、本学の6年制卒業生を招いており、6年制薬学卒後には、薬剤師だけでなく企業や行政でどのような働き方があるのかについて講義と質疑応答を行っている。また、これら講義の多くは撮像を行っており、他学年の学生が自由に視聴できるようになっている。これにより研究職と開発職の違いについての学生の理解が増している。

<熊本大学>

- ・次世代創薬研究者育成塾において6年制卒業生の講演会、交流を実施している。
- ・メディポリス国際陽子線治療センター研修では、卒後教育という観点から6年制卒業生が見学・講演会に参加し、最先端の医療に関する研修を実施した。

【2018年（平成30年）度】

<東北大学>

- ・東北大学薬学研究科・薬学部と同窓会である東北大学薬学同窓会に、「東北大学薬剤師ネットワーク」を設立し、東北大学卒の薬剤師の交流の一つの場とすることになっている。本ネットワークは、卒業生の薬剤師活動、生涯教育等を支援し、さらに薬剤師を目指す学部生を含めた交流を活発化することを目的としている。
- ・東北大学大学院薬学研究科主催の地域薬剤師研修会を開催して、卒業生の生涯教育を支援するとともに、地域薬剤師の交流の場としている。

<富山大学>

- ・本学薬学部同窓会である薬窓会にて名簿の管理をしている。
- ・富山県内の病院・薬局に就職をした学生については、事前学習(科目名；病院薬学)の折に非常勤講師をお願いするようにしている。また、卒業生に社会人と博士課程に入学してもらい、在学生にとっても良好な環境を築くようにしている。

<熊本大学>

- ・次世代創薬研究者育成塾において6年制卒業生の講演会、交流を実施した。

【2019年（平成31年／令和元年）度】

<北海道大学>

- ・「医療施設との共同研究」に卒業生、修了生が参画している。

<東北大学>

- ・東北大学薬学研究科・薬学部と同窓会である東北大学薬学同窓会に、「東北大学薬剤師ネットワーク」を設立し、東北大学卒の薬剤師の交流の一つの場とすることになっている。本ネットワークは、卒業生の薬剤師活動、生涯教育等を支援し、さらに薬剤師を目指す学部生を含めた交流を活発化することを目的としている。
- ・東北大学大学院薬学研究科主催の地域薬剤師研修会を開催して、卒業生の生涯教育を支援するとともに、地域薬剤師の交流の場としている。
- ・卒業生の連絡先情報の定期的に更新する仕組みを作っていなかったため、連絡できない方がでてしまった。

<千葉大学>

- ・特になし。連携の仕組みを作っていないことが問題。

<金沢大学>

- ・各領域で活躍している卒業生を講師として招聘し、在學生に様々なキャリアパスについて説明する集中講義を実施した。
- ・薬学類4年生の講義科目「薬物治療演習」の実施内容を「薬物治療検討会」として卒業生並びに地域薬剤師に公開している。

<名古屋市立大学>

- ・薬学部独自の就職セミナーを毎年11月に実施しているが、そのセミナーで6年制卒業生を講師として招聘し、就職先での活動や課題、将来について講演をお願いしている。セミナー終了後は、懇親会を開催し、在學生との懇談を行っている。
- ・実務実習事前学習の講師を依頼し、薬局業務、病院業務についての講義、実技指導等をお願いしている。

<広島大学>

- ・卒業生が連携して実施する共同臨床研究を推進している。

<熊本大学>

- ・「次世代創薬研究者育成塾」において6年制卒業生の講演会、交流を実施した。
- ・「薬剤師のための医療薬科学研修会」（熊本大学薬学部教育委員会卒業教育部会）を開催した。

【2020年（令和2年）度】

<北海道大学>

- ・「医療施設との共同研究」に卒業生、修了生が参画している。

<東北大学>

- ・東北大学薬学研究科・薬学部の同窓会である東北大学薬学同窓会に、「東北大学薬剤師ネットワーク」を設立し、東北大学卒の薬剤師の交流の一つの場とすることになっている。本ネットワークは、卒業生の薬剤師活動、生涯教育等を支援し、さらに薬剤師を目指す学部生を含めた交流を活発化することを目的としている。
- ・東北大学大学院薬学研究科主催の地域薬剤師研修会を開催して、卒業生の生涯教育を支援するとともに、地域薬剤師の交流の場としている。なお、2020年度はコロナのこともあり、開催を見送った。

<富山大学>

- ・4年生次で開講されている病院薬学の講義の中で、本学卒業生で病院薬剤師をしている者を非常勤講師として招聘し、在學生との連携を保っている。また、同窓会が各学生の連絡

先は把握している。

<金沢大学>

- ・各領域で活躍している卒業生を講師として招聘し、在学生に様々なキャリアパスについて説明する集中講義を実施した。
- ・薬学類4年生の講義科目「薬物治療演習」の実施内容を「薬物治療検討会」として卒業生並びに地域薬剤師に公開している。

<名古屋市立大学>

- ・薬学部独自の就職セミナーを毎年11月に実施しているが、そのセミナーで6年制卒業生を講師として招聘し、就職先での活動や課題、将来について講演をお願いしている。セミナー終了後は、懇親会を開催し、在校生との懇談を行っている。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響でZOOMでの講演のみ実施した。
- ・実務実習事前学習の講師を依頼し、薬局業務、病院業務についての講義、実技指導等をお願いしている。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で参加人数を制限して実施した。ZOOMによる遠隔講義実施に伴い遠方からの講師参加が可能となった。

<広島大学>

- ・卒業生が連携して実施する共同臨床研究を推進している。

<九州大学>

- ・病院実務実習において、本学の卒業生が実習生の指導を行う機会を設けている。

<熊本大学>

- ・「次世代創薬研究者育成塾」において6年制卒業生の講演会、交流を実施した。
- ・「薬剤師のための医療薬科学研修会」（熊本大学薬学部教育委員会卒後教育部会）を開催した。

【2021年（令和3年）度】

<北海道大学>

- ・「医療施設との共同研究」に卒業生、修了生が参画している。

<東北大学>

- ・東北大学薬学研究科・薬学部の同窓会である東北大学薬学同窓会に、「東北大学薬剤師ネットワーク」を設立し、東北大学卒の薬剤師の交流の一つの場とすることになっている。本ネットワークは、卒業生の薬剤師活動、生涯教育等を支援し、さらに薬剤師を目指す学部生を含めた交流を活発化することを目的としている。

- ・東北大学大学院薬学研究科主催の地域薬剤師研修会を開催して、卒業生の生涯教育を支援するとともに、地域薬剤師の交流の場としている。ただし、対面での交流活動が困難な状況にある。

<富山大学>

- ・富山大学・薬窓会（薬学部・和漢研の同窓会組織）が卒業生の連絡先等は把握している。
- ・薬学科4年次開講科目である「病院薬学」の科目内にて、“薬剤師1日体験”を実施しているが、その事前説明を兼ねて、富山県内で病院薬剤師として活躍中の本学卒業生を非常勤講師として、雇用し、病院薬剤師となった卒業生との交流をはかっている。

<金沢大学>

- ・各領域で活躍している卒業生を講師として招聘し、在学生に様々なキャリアパスについて説明する集中講義を実施した。
- ・薬学類4年生の講義科目「薬物治療演習」の実施内容を「薬物治療検討会」として卒業生並びに地域薬剤師に公開している。

<名古屋市立大学>

- ・薬学部独自の就職セミナーを毎年11月に実施しているが、そのセミナーで6年制卒業生を講師として招聘し、就職先での活動や課題、将来について講演をお願いしている。セミナー終了後は、懇親会を開催し、在校生との懇談を行っている。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響でZOOMでの講演のみ実施した。
- ・実務実習事前学習の講師を依頼し、薬局業務、病院業務についての講義、実技指導等をお願いしている。2020年度は新型コロナウイルス感染症の影響で参加人数を制限して実施した。ZOOMによる遠隔講義実施に伴い遠方からの講師参加が可能となり、参画できる卒業生が増えている。

<広島大学>

- ・卒業生が連携して実施する共同臨床研究を推進している。

<九州大学>

- ・九州大学病院薬剤部で活躍している本学の卒業生が、臨床薬学科3年生に対して、がん専門薬剤師、HIV専門薬剤師としての業務や臨床研究について紹介し質疑応答や意見交換を行う機会を設けている。
- ・病院実務実習において、本学の卒業生が実習生の指導を行う機会を設けている。

<熊本大学>

- ・「次世代創薬研究者育成塾」において6年制卒業生の講演会、交流を実施した。
- ・「薬剤師のための医療薬科学研修会」（熊本大学薬学部教育委員会卒後教育部会）を開催

した。

3. 薬学教育モデル・コアカリキュラムの改訂に合わせた取組や教育研究プログラムあるいは学部教育・大学院教育の質を向上させるための大学独自の取組や教育研究プログラム（組織・教育課程の改編、カリキュラム改訂、実務実習の実施体制・内容の変更等）

薬学教育モデル・コアカリキュラム（コアカリ）は、2013年に改訂され、2015年度入学生から適用されることになった。国公立大学を始め全薬系大学は、このコアカリ改訂に合わせて自大学のカリキュラムの改訂を行い、入学生の受け入れに備えた。一方、文部科学省は「全ての大学等において三つの方針を一貫性あるものとして策定し、公表するものとする」とする省令改正を2016年3月31日改正、2017年4月1日施行で行い、各大学の建学の「精神や強み・特色等を踏まえた自主的・自律的な三つの方針の策定と運用の参考指針」として三つの方針の策定及び運用に関するガイドラインを示した。したがって、各薬系大学には、改訂コアカリの趣旨である学習成果基盤型教育を十分に反映させ、しかも大学独自の三つのポリシーに沿った教育を実践できるカリキュラムの構築が求められたことになる。本事業期間中は、国公立17大学（2021年度から19大学）は、このような背景のもと、カリキュラムの改訂を行い、それに基づいた薬学教育研究を実践したので、各大学における本事業と関連する「コアカリの改訂に合わせた取組や教育研究プログラム」として報告する。

また、このような研究教育活動の変革の中で、各大学においては学部教育及び大学院教育における人材育成の目標を達成するために、これまでの教育研究の実績と各大学で特色ある物的・人的リソースを活用した独自の取組や教育研究プログラムについても、それぞれの薬学教育プログラムの中に反映させ、実施してきた。そこで、本事業と関連するこれらの教育研究活動について、学部教育・大学院教育の質を向上させるための「独自の取組や教育研究プログラム」として報告する。

2018年度には、本事業に係る機能強化経費は基幹経費化され、本事業に係る教育研究活動は各大学において定着し、継続的に実施される位置づけとなった。そこで、5つの主なアドバンスト教育研究プログラムと共に、2016年度から2018年度に実施された上記のような教育研究活動は、原則、2019年度～2021年度、さらにはそれ以降も継続な実施が求められることになり、実際に各大学の時限実施以外の取組や教育研究プログラムはこの期間継続的あるいは継続的かつ発展的に実施されている。さらに、2019年6月の国公立大学薬学部長（科長・学長）会議において国公立大学薬学6年制教育研究検討委員会の設置が認められ、薬学教育における課題として以下の8点事項について解決に受けた提言・対応を行うこととなった。そこで、本項については、2019年度から2021年度は参画大学に対して、これら8項目の課題に対する対応について報告を求めた。

- (1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方
- (2) 実務実習実施体制
- (3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応

- (4) 第三者評価への対応
- (5) 共用試験の在り方
- (6) 大学院博士課程における教育研究の在り方
- (7) 臨床研修制度
- (8) その他

以下、参画大学の事業成果報告をもとに、年度毎に、実施大学別に教育研究プログラムとその概要をまとめた。事業参画大学間の連携プログラムとして実施したものには【連携】を付した。各プログラムの成果については、実施大学のホームページ等に詳細が記載されている。

【2016年（平成28年）度】

<東北大学>

- ・科目名セルフメディケーション学（1単位）を薬学科4年次生を対象に開講している。

<金沢大>

- ・英語によるコミュニケーション能力の養成と国際感覚の醸成を目的に、2年生前期に、短期海外留学プログラムを開講している。
- ・実務実習後、さらにアドバンスな内容を学びたい学生のために、選択科目「病院実習II」（旧カリキュラム）ないし「チーム医療実習」（新カリキュラム）を開講している。

<名古屋市立大学>

- ・地域と育む未来医療人「なごやかモデル」（名古屋工業大学、名古屋学院大学との連携）を実施している。
- ・コミュニティヘルスケア卒前教育プログラムとして学部横断型授業を実施している（1年次生～6年次生）

<岡山大学>

- ・キャンパスアジアナノ・バイオコース「国際連携薬学セミナー」（岡山大学）として、2013年度から実施していた成均館大学薬学校（韓国）で開講されている英語での専門科目（2～3科目）の受講及び成均館大学の学生との交流の事業を2016年度から正規授業「国際連携薬学セミナー」（0.5単位）として開講している。

<九州大学>

- ・多職種連携教育（IPE：Interprofessional education）として医学部医学科、医学部看護学科、歯学部、薬学部の合同で行う医療系統合教育（3年次から4年次）を実施している。

【2017年（平成29年）度】

<北海道大学>

- ・調整機構の中に委員会やワーキンググループを設け、地区内で共有可能な施設情報登録システムや評価基準を検討している。

<東北大学>

- ・事前学習内容の見直しを行った。
- ・改定モデル・コアカリキュラム実務実習に向けた説明会を開催した。東北各県で同じ内容の説明会を順次開催する予定である。
- ・カリキュラムの見直し。薬事関係法規2（1単位）、臨床コミュニケーション学（1単位）を必修科目として、新しく開講する。

<東京大学>

- ・事前学習における薬物治療関連の講義を、新コアカリで示された代表8疾患をカバーする内容に改定中である。
- ・新コアカリへの対応の前提として、実習施設と実習内容に関して議論し不足点やその対応について検討中である。

<富山大学>

- ・学生の学修の理解を深めるためのFDを実施し、臨床前実習での概略評価の作成を行った。
- ・改訂コアカリに沿った学習について理解を深めるために、OBE説明会、アドバンスワークショップ、スキルアップワークショップ、ワークショップを実施した。
- ・旧来の事前学習以外に4年生前期科目として病院薬学・保険薬局薬学の新科目を設置し、実習前に薬剤師業務を理論的に学習するようにしている。

<金沢大学> 【連携】

- ・地域薬剤師・薬学教員連携コンソーシアムによる臨床現場での課題解決地域医療体験型教育プログラムの開発に向けた教育研究融合型授業を開始した。
- ・北信がんプロがん個別化薬物療法薬剤師リーダーコースを実施した（金沢大学、富山大学）。

<岐阜薬科大学>

- ・振り返りレポートを活用した大学・施設間情報連携に関するトライアル実習を進める。
- ・岐阜薬科大学附属薬局におけるトライアル実習を実施した。
- ・ルーブリック評価の導入を予定している。
- ・2016年度から、4年生を対象として、多職種連携授業を岐阜大学医学部、平成医療短期大学、岐阜県立看護大学など他大学と連携して実施している。

<名古屋市立大学>

- ・実務実習事前学習の評価改訂と実習前面接を実施する。

- ・改訂コアカリに対応した参加・体験型実務実習に円滑に対応するため実務実習事前学習の授業内容の見直しとともに、評価の改訂を臨床系教員で検討して変更を行っている。改訂前では知識レベルの習得度を測るペーパーテストや口頭試問、チェックリストが主であったが、ポートフォリオ評価と週報によるフィードバックと採点を主とした評価に変更し試行中である。
- ・参加体験型の実習に臨むにあたり、事前学習修了者全員に臨床系教員が面接を行い学生の要望や不安を聞き取るとともに、メンタルな課題の洗い出しを試行している。昨年度から本面接で得た情報を、実習担当教員と共有し、必要があると思われる実習生の個別情報を学生が同意したものについて実習施設への伝達を始めた。
- ・本学生面接と教員・実習施設への情報提供が有効であるかについて 現在解析を行なっている。
- ・東海薬学教育コンソーシアムによるワークショップを開催した。
- ・東海地区調整機構に所属する薬系大学（名市大薬、岐阜薬科大、静岡県大薬、名城大薬、愛知学院大薬、金城学院大薬、鈴鹿医療科学大薬）7大学が主体となり、各県薬剤師会、病院薬剤師会と連携して、名市大薬に拠点を置き、新しい臨床薬学教育の推進のためのコンソーシアムを運営している。【連携】
- ・6年間の一貫した医療人教育評価の検討と導入として、1年生入学時から卒業までの一貫した医療人としての成長記録とその評価を行うため、授業や学年を超えた総合的な評価方法の検討を行い、開始した。

<京都大学>

- ・京都府薬剤師会と連携し、2019度からの改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習における実習環境の整備を目的として、近隣薬局を集めた実務実習グループ協議会を開催した。受入可能性のある薬局に対し、代表的な8疾患に関わる業務の深さおよび在宅医療・セルフメディケーション業務の深さをアンケート調査した。
- ・京都大学附属病院薬剤部での実務実習を紹介するインターネット講義を実施するとともに、一堂に会してのグループ協議ワークショップを開催した。
- ・在宅医療・セルフメディケーション・地域で活躍する薬剤師の3項目を取り上げ、それぞれ現状の実習の問題点とその対処法などについて協議した。
- ・臨床体験講習として、4年次後期医療実務事前学習期間中に京都大学医学部附属病院看護部の看護師に、非常勤講師の指導でフィジカルアセスメント実習を実施した。
- ・1年次の入学時オリエンテーションにおいて、心肺蘇生のトレーニングキットを用いた救命講習を行っている。それを受けて4年次に京都市左京消防署より講師を派遣していただき、シミュレーターを用いて一次救命講習を実施した。

<岡山大学>

- ・病院実習：改訂モデル・コアカリの基本理念であるoutcome-Based Education (OBE) を視野において、ポートフォリオを用いた振り返りの有用性を検証するとともに岡山大学病院で独自に作成したルーブリックを用いた到達度評価のトライアルを行っている。

- ・病院実習：薬学部教員4名と、薬剤部の各部署の責任者（9名）＋担当副薬剤部長が月に1回、実務実習WGを開催し、実習上の問題点の共有と解決方法について、また改訂モデル・コアカリ対応実習における形成的評価の方法や、薬局との情報共有の方法などについて不断の議論を行っている。
- ・科目等履修生の病院実習：2019年度からの導入を見越して、Webシステムの使い勝手を知るために、科目等履修生の病院実習にWebシステムのトライアルを実施した。
- ・県薬剤師会、就実大学および本学の臨床系教員が月1回薬局実習委員会を開催し、2019年度からの改訂モデル・コアカリ対応の薬局実習の受入れ先ならびに評価方法等について議論している。
- ・県薬剤師会・県病院薬剤師会・大学の三者による実習特別委員会を数か月に1回の頻度で開催しており、改訂モデル・コアカリ対応実習における事前実習～薬局実習～病院実習の内容共有や、統一化したルーブリックでの連続的な評価につき検討を行っている。
- ・8疾患の実施可能性を把握するために、実習特別委員会で作成した連携ツールを用いて、薬局・病院の順番となった学生で、トライアルを実施した。
- ・中国・四国地区の薬学部・薬科大学等で構成される大学委員会を数か月に1回の頻度で開催しており、地区で統一した実務実習計画書や、事前実習のルーブリックについて検討している。【連携】
- ・事前実習の形成的評価を大学独自で作ったルーブリックで行っている。
- ・早期体験学習として救命処置をシミュレーターで実施できるようにカリキュラムを変更した。
- ・終末期医療における全人的ケアを学ぶ演習を行っている。
- ・5、6年次の選択科目として行っていたフィジカルアセスメントを2年次の早期体験学習と4年次の事前実習に取り入れ必修化した。
- ・希望学生に対し、薬剤師が主体的に薬学的アセスメントを実施している在宅医療現場の見学体験をさせている。

<広島大学>

- ・改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した長期実務実習の連携体制の構築を行った（大学・薬局・病院の連携システム、評価指標の設定、トライアルの実施など）
- ・薬剤師会との連携による薬剤師を対象とした在宅支援薬剤師専門研修会（無菌製剤、バイタルサインなど）を実施している。

<徳島大学>

- ・授業内容とカリキュラムの再編成を行っている。

<九州大学>

- ・改訂コアカリ対応薬局実務実習トライアルを実施した。
- ・早期体験学習において心肺蘇生実習を実施した。

<長崎大学>

- ・日本薬剤師会の薬局実習トライアルへの協力を薬局において実施している。
- ・地域薬剤師卒後教育研修センターでの教育研究活動を推進した。

<熊本大学>

- ・医学部の協力を得て、医学生との臨床実習（ポリクリ）を実施した。
- ・独自の全学年を通じたe-ポートフォリオを導入した（事前学習と実務実習との連携を重視）。
- ・PROGテスト、マナー人材育成の講義を実施した。
- ・アントレプレナーの講義とスモールグループディスカッションを実施した。

【2018年（平成30年）度】

<北海道大学>

- ・調整機構の中に委員会やワーキンググループを設け、地区内で共有可能な施設情報登録システム運用や実習評価の改善に協力している。

<東北大学>

- ・事前学習を含めて、カリキュラムの見直しを継続的に行っている。
- ・薬事関係法規2（1単位）、臨床コミュニケーション学（1単位）を必修科目として、新しく開講した。

<東京大学>

- ・2018年度には、事前学習における薬物治療関連の講義を代表8疾患をカバーする内容に改定したが、症例解析など学生からのアウトプットの機会が十分でなかった。そのため、現在課題症例の作成などを行っている。

<富山大学>

- ・学生の学修の理解を深めるためのFDの実施し、臨床前実習での概略評価の作成を行った。
- ・改訂コアカリに沿った学習について理解を深めるために、OBE説明会、アドバンスワークショップ、スキルアップワークショップ、ワークショップを実施した。
- ・旧カリの事前学習の講義部分を4年生前期科目として病院薬学・保険薬局薬学の新科目を設置し、実習前に薬剤師業務を理論的に学習するようにしている。試験を実施し、知識の定着を目指している。

<金沢大学>

- ・金沢大学薬学類は教育理念に則り強いリーダーシップを有し、国際的視野で活躍できるバランスのとれた医療人や薬学教育・研究者の養成を目指す。今後の医療体制は、医療、介

- 護、保健、福祉を切れ目なく結びつけた地域包括ケアシステムの構築が前提となっている。
従って、実務実習においても現状と将来を見据えた実習体制を構築した。
- ・北信がんプロがん個別化薬物療法薬剤師リーダーコースを実施した(金沢大学、富山大学)。

【連携】

<静岡県立大学>

- ・2年次生の早期体験学習において、AED講習会を必修として開始した。一般市民として必要なAEDの使い方などを学習している。

<岐阜薬科大学>

- ・振り返りレポートを活用した大学・施設間情報連携に関するトライアル実習を進める。
- ・ルーブリック評価を実務実習事前学習に導入した。その他の科目でも導入を検討している。

<名古屋市立大学>

- ・東海地区調整機構に所属する薬系大学(名市大薬、岐阜薬科大、静岡県大薬、名城大薬、愛知学院大薬、金城学院大薬、鈴鹿医療科学大薬)7大学が主体となり、各県薬剤師会、病院薬剤師会と連携して、名市大薬に拠点を置き、新しい臨床薬学教育の推進のためのコンソーシアムを運営し、東海地区の連携を図った。**【連携】**
- ・1年生からのポートフォリオ作成と継続的な「薬剤師として求められる基本的な資質」の評価を実施した。

<京都大学>

- ・京都府薬剤師会と連携し、2019度からの改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習における実習環境の整備を目的として、近隣薬局を集めた実務実習グループ協議会を開催した。グループ内の薬局に対し学校薬剤師に関する実習実施の可否についてアンケート調査を行った。
- ・協議会では、薬局実習における実習内容の分担案や実施スケジュールに関する協議及び実務実習実施計画書の作成における情報共有を行った。また、実務実習開始に向けてWEBシステムの使用法、薬局・病院・大学の連携、各種問い合わせ先などの最終確認を行った。
- ・臨床体験講習として、4年次後期医療実務事前学習期間中に京都大学医学部附属病院看護部の看護師に、非常勤講師の指導でフィジカルアセスメント実習を実施した。
- ・1年次の入学時オリエンテーションにおいて、心肺蘇生のトレーニングキットを用いた救命講習を行っている。それを受けて4年次に京都市左京消防署より講師を派遣していただき、シミュレーターを用いて一次救命講習を実施した。
- ・2019年度からの改訂モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習における実習環境の整備を目的とし、昨年度より京都府薬剤師会と連携して近隣薬局および病院の薬剤師を集めた実務実習グループ協議会を開催している。2018年度も8月および1月に実務実習グループ協議会を開催した。8月の協議会に先立ち、グループ内の薬局に対し、学校薬剤師に関する

る実習実施の可否についてアンケート調査を行い、33薬局より回答を得た。協議会には、薬局より15名、病院より3名、京都府薬剤師会より2名、大学より9名が参加し、上記アンケート結果のフィードバックを行うと共に、薬局実習における実習内容の分担案や実施スケジュールに関する協議および実務実習実施計画書の作成における情報共有を行った。1月の協議会は薬局より11名、病院より4名、大学より2名が参加し、実務実習開始に向けてWEBシステムの使用法、薬局・病院・大学の連携、各種問い合わせ先などの最終確認を行った。

<岡山大学>

- ・改訂モデル・コアカリ対応実習における日本薬剤師会、日本病院薬剤師会がそれぞれ作成した形成的評価表に対応する大学の臨床準備教育のルーブリックを作成し、大学での到達度を実務実習先と共有した。
- ・実務実習指導・管理システム（以下、Webシステム）の導入に伴い、教授会の審議を経て、基礎系の教員も含めて薬学部全教員が実習生の実習進捗状況の見守りと施設訪問を行う体制を整備した。その説明会として第47回FDフォーラムとして開催した。
- ・富士ゼロックスシステムサービスの方に来学頂き、臨床系の教員全員が参加してWebシステムの運用説明会を受けた。
- ・病院実務実習WGを開催し、実習上の問題点の共有と解決方法について、またWebシステムの導入に伴い、改訂モデル・コアカリ対応実習における形成的評価に関して、従来、岡山大学病院独自で作成・使用されてきたルーブリック評価表との併活用の具体的方法や、Webシステムや地域連携ツールを使用した薬局との情報共有の方法などについて議論を行っている。
- ・岡山県薬剤師会-岡山県病院薬剤師会-大学の三者による実習特別委員会を数か月に1回の頻度で開催しており、改訂モデル・コアカリ対応実習における大学～薬局～病院実習での実習生の到達度や、実施できた8疾患の連携ツールでの情報共有、ルーブリックでの形成的評価などにつき検証や議論を重ねている。
- ・県薬剤師会、就実大学および本学の臨床系教員が月1回薬局実習委員会を開催し、2019年度からの改訂モデル・コアカリ対応のトラブル事例や課題について情報共有し、議論している。
- ・岡山県病院薬剤師会、就実大学および本学の臨床系教員2名が参集して、月1回県病実習委員会を開催し、改訂モデル・コアカリ対応実習のトラブル事例や課題について情報共有し、実習を円滑に実施できるように議論している。
- ・中国・四国地区の薬学部・薬科大学10校で構成される大学委員会を年3回開催される調整機構会議の直前に行っており、第三者委員会によるトラブル事例や良い事例の報告・共有、中国・四国地区ならびに近畿地区などからのふるさと実習受入れ・実習配属先の相談、九州・山口地区へのふるさと実習の依頼、など改訂モデル・コアカリ対応実習に関する諸問題に関して、議論を行っている。【連携】
- ・臨床準備教育の実習部分の技能・態度に関する形成的評価を大学独自で作ったルーブリッ

クで行っている。

- ・近隣の終末期医療に関わっている開業医の協力の下、外来・診察室での患者コミュニケーションや、在宅での地域医療にかかわる医療従事者（ケアマネージャー、訪問看護師、薬剤師等）のチーム連携に関する演習を行っている。
- ・地域包括ケアシステムにおける保険薬局業務の拡大を考慮して、薬局薬剤師業務の紹介や、ロールプレイ、SGDを入れることによって、より充実を図った。
- ・5、6年次の選択科目として行っていたフィジカルアセスメントを2年次の早期体験学習と4年次の事前実習に取り入れ必修化した。救命処置をシミュレーターで実施できるようにカリキュラムを変更して実施している。

<広島大学>

- ・改訂モデル・コアカリキュラムに準拠した長期実務実習の連携体制の構築を行った（大学・薬局・病院の連携システム、評価指標の設定、トライアルの実施など）
- ・薬剤師会との連携による薬剤師を対象とした在宅支援薬剤師専門研修会（無菌製剤、バイタルサインなど）を実施している。

<徳島大学>

- ・授業内容とカリキュラムの再編成を行っている。

<九州大学>

- ・改訂コアカリ対応薬局実務実習トライアルを実施した。
- ・一次救命処置の実習・講義、在宅業務の内容・重要性・今後についての講義、シミュレーターを用いての心音・呼吸音の聴取の実習を実施した。

<長崎大学>

- ・地域薬剤師卒後教育研修センターが主催する講習会等を開催した。薬学部育薬研究教育センターへ新規に専任教授（女性教員）を配置した。
- ・1年間にわたり、長崎大学病院薬剤部にて病院実習の先行導入を行った。
- ・長崎市内の多くの実習薬局にて薬局実習の先行導入を行った。
- ・九州大学、熊本大学、長崎大学の3大学で本事業の取組としてシンポジウムを開催している。2020年度は長崎大学で開催予定である。【連携】

<熊本大学>

- ・医学部の協力を得て、医学生との臨床実習（ポリクリ）を実施した。
- ・独自の全学年を通じたe-ポートフォリオを導入した（事前学習と実務実習との連携を重視）。
- ・実務実習に関する合同説明会を実施した（主催：熊本大学薬学部、崇城大学薬学部、共催：熊本県薬剤師会、熊本県病院薬剤師会）。
- ・PROGテスト、マナー人材育成の講義を実施した。

- ・アントレプレナーの講義とスモールグループディスカッションを実施した。

【2019年（平成31年／令和元年）度】

2019年度～2021年度は、2019年に国公立大学薬学部長（科長・学長）会議のもとに設けられた国公立大学薬学6年制教育研究検討委員会における以下の検討事項に関連する取組について情報共有を図るために、個々の課題に関する取り組み状況の報告を求めた。

- (1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方
- (2) 実務実習実施体制
- (3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応
- (4) 第三者評価への対応
- (5) 共用試験の在り方
- (6) 大学院博士課程における教育研究の在り方
- (7) 臨床研修制度
- (8) その他

<北海道大学>

- (2) 実務実習実施体制に関して、
 - ・病院実習では同病院の薬剤部長兼任教授および診療補助従事者登録をしている教員が対応し、2～3週間毎の指導薬剤師とのミーティングにより進捗状況を共有し問題があれば迅速に協議・対応できる体制を構築している。
 - ・薬局実習ではWebシステムを活用し、学生と担当教員、認定指導薬剤師と担当教員の緊密な連絡体制が構築されている。

<東北大学>

- (1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方に関して、
 - ・薬学評価機構からの指摘事項に関して、改善等に繋がるよう対応を検討しており、事前学習を含めたカリキュラムの継続的見直しを行っている。
- (2) 実務実習実施体制に関して、
 - ・東北大学薬学部卒業生としてふさわしい資質・能力等の習得に資する実務実習方法について、実務担当者間で議論を重ねている。実施環境等の様子を見ながら、学部内でのコンセンサス、次いで実習先指導薬剤師等との意見交換等を進められたらと考えている。
- (3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、
 - ・全学の対応する委員会（薬学研究科からも参加）で検討されており、同時に薬学研究科内の会議（教務委員会、教授会等）で検討を重ねている。
- (4) 第三者評価への対応に関して、
 - ・(1)にも関連するが、第1期目の評価を受けて、改善等に繋がるよう対応を検討している。

<金沢大学>

- (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・ 県薬、県病薬、調整機構と連携した大学主導の実務実習スケジュールの構築を図る。
- (3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、
- ・ 入試改革に呼応し、研究者養成を目指したAO入試による博士一貫コースを設置した。
- (4) 第三者評価への対応に関して、
- ・ 第三者評価に対応するための委員会を設置した。
- (6) 大学院博士課程における教育研究の在り方に関して、
- ・ 博士課程教育におけるがんプロフェッショナルプランと連携した教育研究を推進する。

<岐阜薬科大学>

- (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・ 岐阜大学医学部附属病院・岐阜市民病院・岐阜薬科大学附属薬局に臨床系教員を配置し、大学・医療機関で密に連携して5年生における病院・薬局実務実習を行っている。岐阜における実務実習の先進的な実務実習のモデルとなっていると同時に、全国に対しては論文・学会発表等でその取り組みを報告している。

<名古屋市立大学>

- (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・ 東海薬学教育コンソーシアムでは 11月に東海地区の薬系7大学学部長、教務主任、臨床教育担当者の会議を行い、カリキュラム、実務実習、共用試験などについて意見交換ならびに情報共有するとともに、薬剤師会や病院薬剤師会との連携をはかる協議を行っている。また 東海地区の臨床系教員と薬剤師会、病院薬剤師会とのワークショップを開催し、実務実習などのレベルアップに向けての提言などをまとめている。

<京都大学>

- (1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方及び (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・ モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習における薬局・病院・大学の連携強化を目的とし、実務実習実施体制としてグループ化を取り入れている。大学、病院とその近隣の薬局を一つのグループとし、グループ単位での協議会を開催し、2019年度に開始されたモデル・コアカリキュラムに準拠した実習の振り返りや、さらなる実務実習の質向上を目指した協議を行った。
- (3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、
- ・ 京都大学の特色入試では、高大接続と個々の学部教育を受ける基礎学力を重視し、①高等学校での学修における行動と成果の判定、②個々の学部におけるカリキュラムや教育コースへの適合力の判定を行い、①と②の判定を併せて、志願者につき高等学校段階までに育成されている学ぶ力及び個々の学部教育を受けるにふさわしい能力並びに志を総合的に評価して選抜する。
 - ・ 薬学部の特色入試も、京都大学全体での特色入試方針のもとに行っている。高大接続を重んじるという観点から、「調査書」に加え「学業活動報告書」、「学びの設計書」をもと

に志願者自らの学ぶ意欲や志について書類審査を通じて評価する。さらに、学部が定めたカリキュラムの内容を修得するのに必要とされる基礎学力や個々の学部における教育コースにとって望ましい能力を重んじるという観点から、書類審査に加えて、大学入試センター試験の成績、薬学部独自の能力測定考査、論文試験、面接試験、口頭試問を行う。

<岡山大学>

(2) 実務実習実施体制に関して、

- ・実務実習指導・管理システム（以下、Webシステム）の導入に伴い、教授会の審議を経て、基礎系教員や学部長も含めて実習生の実習進捗状況のWebでの見守りと施設訪問を行う責任教員体制を構築し、薬学部全教員で実務実習中の実習生の指導を行っている。
- ・薬学部教員3名と薬剤部の各部署の責任者（9名）＋担当副薬剤部長が月に1回、病院実務実習WGを開催し、実習上の問題点の共有と解決方法について、またWebシステムの導入に伴い、改訂モデル・コアカリ対応実習における形成的評価に関して、従来、岡山大学病院独自で作成・使用されてきたルーブリック評価表からの外挿方法を確立し、Webシステムや地域連携ツールを使用した薬局との情報共有の方法などについて決定し実施した。

<広島大学>

(2) 実務実習実施体制に関して、

- ・県薬、県病薬と実務実習の在り方について検討している。

(6) 大学院博士課程における教育研究の在り方に関して、

- ・博士課程への進学率向上に向けて、学部入学後から研究室で研究に触れる機会を増やしている。

<徳島大学>

(3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、

- ・2020年度から実施予定の新6年制課程の募集に向けて、検討を行っている。

<熊本大学>

(2) 実務実習実施体制に関して、

- ・医学部の協力を得て、医学生との臨床実習（ポリクリ）を実施している。
- ・独自の全学年を通したe-ポートフォリオを導入している。

(8) その他に関して、

- ・PROGテスト、マナー・人材育成の講義を実施している。
- ・アントレプレナーの講義とスモールグループディスカッションを実施している。

【2020年（令和2年）度】

<北海道大学>

(2) 実務実習実施体制に関して、

- ・病院実習では同病院の薬剤部長兼任教授および診療補助従事者登録をしている教員が対応し、2～3週間毎の指導薬剤師とのミーティングにより進捗状況を共有し問題があれば迅速に協議・対応できる体制を構築している。
- ・薬局実習ではWebシステムを活用し、学生と担当教員、認定指導薬剤師と担当教員の緊密な連絡体制が構築されている。

<東北大学>

(1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方に関して、

- ・薬学評価機構からの指摘事項に関して、改善等に繋がるよう対応を検討しており、事前学習を含めたカリキュラムの継続的見直しを行っている。

(2) 実務実習実施体制に関して、

- ・東北大学薬学部卒業生としてふさわしい資質・能力等の習得に資する実務実習方法について、実務担当者間で議論を重ねている。実施環境等の様子を見ながら、学部内でのコンセンサス、次いで実習先指導薬剤師等との意見交換等を進められたらと考えている。

(3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、

- ・全学の対応する委員会（薬学研究科からも参加）で検討されており、同時に薬学研究科内の会議（教務委員会、教授会等）で検討を重ねている。

(4) 第三者評価への対応に関して、

- ・(1)にも関連するが、第1期目の評価を受けて、改善等に繋がるよう対応を検討している。

<富山大学>

(2) 実務実習実施体制に関して、

- ・実務実習については、地域貢献大学であることを踏まえ、11週+11週間を前提と現在はしている。そのために、富山県の薬剤師会等の連携の強化をはかるために臨床薬学教育推進センターを2021年4月に設置した。

<金沢大学>

(2) 実務実習実施体制に関して、

- ・県薬、県病薬、調整機構と連携した大学主導の実務実習スケジュールの構築を図る。

(3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、

- ・入試改革に呼応し、研究者養成を目指したAO入試による博士一貫コースを設置した。

(4) 第三者評価への対応に関して、

- ・第三者評価に対応するための委員会を設置した。

(6) 大学院博士課程における教育研究の在り方に関して、

- ・博本学卓越大学院プログラムへ参画している。また、博士課程学生に対する各種奨学金制度（学内及び学部内）を整備している。

- ・博士課程教育におけるがんプロフェッショナルプランとの連携の強化を図っている。

<静岡県立大学>

(6) 大学院博士課程における教育研究の在り方に関して、

- ・社会人大学院生を積極的に受け入れている。

(8) その他に関して、

- ・長期履修制度を導入している。

<岐阜薬科大学>

(2) 実務実習実施体制に関して、

- ・岐阜大学医学部附属病院・岐阜市民病院・岐阜薬科大学附属薬局に臨床系教員を配置し、大学・医療機関で密に連携して5年生における病院・薬局実務実習を行っている。岐阜における実務実習の先進的な実務実習のモデルとなっていると同時に、全国に対しては論文・学会発表等でその取り組みを報告している。

<名古屋市立大学>

(2) 実務実習実施体制に関して、

- ・東海薬学教育コンソーシアムでは 11月に東海地区の薬系7大学学部長、教務主任、臨床教育担当者の会議を行い、カリキュラム、実務実習、共用試験などについて意見交換ならびに情報共有するとともに、薬剤師会や病院薬剤師会との連携をはかる協議を行っている。また 東海地区の臨床系教員と薬剤師会、病院薬剤師会とのワークショップを開催し、実務実習などのレベルアップに向けての提言などをまとめている。

<京都大学>

(1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方及び (2) 実務実習実施体制に関して、

- ・モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習における薬局・病院・大学の連携強化を目的とし、実務実習実施体制としてグループ化を取り入れている。大学、病院とその近隣の薬局を一つのグループとし、グループ単位での協議会を開催し、2019年度に開始されたモデル・コアカリキュラムに準拠した実習の振り返りや、さらなる実務実習の質向上を目指した協議を行った。

(3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、

- ・薬学部の特色入試では、京都大学全体での特色入試方針のもとに行っている。高大接続を重んじるという観点から、「調査書」に加え「学業活動報告書」、「学びの設計書」をもとに志願者自らの学ぶ意欲や志について書類審査を通じて評価する。さらに、学部が定めたカリキュラムの内容を修得するのに必要とされる基礎学力や個々の学部における教育コースにとって望ましい能力を重んじるという観点から、書類審査に加えて、大学入試センター試験の成績、薬学部独自の能力測定考査、論文試験、面接試験、口頭試問を行う。

<岡山大学>

(1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方に関して、

- ・モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方として、モデル・コアカリキュラム対応実習における形成的評価に関して、従来、岡山大学病院独自で作成・使用されてきたルーブリック評価表からの外挿方法を確立し、また、薬局実習委員会で県薬剤師会と共同で作成した連携ツールを活用した薬局と病院との情報共有を行っている。
- (2) 実務実習実施体制及び(4) 第三者評価への対応に関して、
- ・実務実習実施体制および第三者評価への対応として学部長も含めて基礎系教員を含む全教員で薬局実務実習生の実習進捗状況のWebでの見守りと施設訪問を行う責任教員体制を構築し、薬学部全教員で実務実習中の実習生の指導を行っている。
- (8) その他に関して、
- ・1、2年次に早期に研究体験できる「薬学研究入門」を実施している。

<広島大学>

- (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・県薬、県病薬と実務実習の在り方について検討している。
- (6) 大学院博士課程における教育研究の在り方に関して、
- ・博士課程への進学率向上に向けて、学部入学後から研究室で研究に触れる機会を増やしている。

<山陽小野田市立山口東京理科大学>

- (1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方に関して、
- ・薬学教育体系の可視化に取り組んでいる（カリキュラムマップ、カリキュラムツリーの開発）。
- (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・開学後初となる実務実習、共用試験に向けた準備

<徳島大学>

- (3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、
- ・本学では2021年度入学生より6年制のみとなり、創製薬科学研究者育成コース（30人）と先導的薬剤師育成コース（50人）が設置された。先導的薬剤師育成コースはさらに研究型高度医療薬剤師育成（40人）と研究型地域医療薬剤師育成（10人）に分かれる。これらのコースに合わせて、特色ある教育プログラムや実務実習実施体制の構築、大学院博士課程の充実化に向けて準備を進めている。

<熊本大学>

- (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・医学部の協力を得て、医学生との臨床実習（ポリクリ）を実施している。
 - ・独自の全学年を通したe-ポートフォリオを導入している。
- (8) その他に関して、

- ・PROGテスト、マナー・人材育成の講義を実施している。
- ・アントレプレナーの講義とSGDを実施している。

【2021年（令和3年）度】

<北海道大学>

(2) 実務実習実施体制に関して、

- ・病院実習では同病院の薬剤部長兼任教授および診療補助従事者登録をしている教員が対応し、2～3週間毎の指導薬剤師とのミーティングにより進捗状況を共有し問題があれば迅速に協議・対応できる体制を構築している。
- ・薬局実習ではWebシステムを活用し、学生と担当教員、認定指導薬剤師と担当教員の緊密な連絡体制が構築されている。

<東北大学>

(1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方に関して、

- ・薬学評価機構からの指摘事項に関して、改善等に繋がるよう対応を検討しており、事前学習を含めたカリキュラムの継続的見直しを行っている。

(2) 実務実習実施体制に関して、

- ・東北大学薬学部卒業生としてふさわしい資質・能力等の習得に資する実務実習方法について、実務担当者間で議論を重ねている。実施環境等の様子を見ながら、学部内でのコンセンサス、次いで実習先指導薬剤師等との意見交換等を進められたらと考えている。

(3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、

- ・全学の対応する委員会（薬学研究科からも参加）で検討されており、同時に薬学研究科内の会議（教務委員会、教授会等）で検討を重ねている。

(4) 第三者評価への対応に関して、

- ・(1)にも関連するが、第1期目の評価を受けて、改善等に繋がるよう対応を検討している。

<富山大学>

(1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方に関して、

- ・モデル・コアカリキュラムの内容はカバーできるように、学部内で情報共有を行っている。

(2) 実務実習実施体制に関して、

- ・実務実習については、地域貢献大学であることを踏まえ、11週+11週間とし、本学附属病院だけでなく、市中病院・県内保険薬局でも実習を実施している。

(3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、

- ・令和4年入学より、薬学科の定員を70名とし、うち10名を総合型選抜とした。同じキャンパスに附属病院・和漢医薬総合研究所を有していることをプライオリティとして、希望する一部の学生については卒業研究での分属を可能としている。

(4) 第三者評価への対応に関して、

- ・第三者評価に限らず、レベルが高く、適切な薬学教育がなされるために、例年、多々の教育事項に対して、評価・見直しを行い、改善している。
- (5) 共用試験の在り方に関して、
- ・CBTの実施委員長は、全教授の持ち回りとしている。OSCEについては、全薬学部教員が参加して実施している。

<金沢大学>

- (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・県薬、県病薬、調整機構と連携した大学主導の実務実習スケジュールの構築を図る。
- (3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、
- ・入試改革に呼応し、研究者養成を目指したAO入試による博士一貫コースを設置した。
- (4) 第三者評価への対応に関して、
- ・第三者評価に対応するための委員会を設置した。
- (6) 大学院博士課程における教育研究の在り方に関して、
- ・博本学卓越大学院プログラムへ参画している。また、博士課程学生に対する各種奨学金制度（学内及び学部内）を整備している。
 - ・博士課程教育におけるがんプロフェッショナルプランとの連携の強化を図っている。

<静岡県立大学>

- (7) 大学院博士課程における教育研究の在り方に関して、
- ・社会人大学院生を積極的に受け入れている。
- (8) その他に関して、
- ・長期履修制度を導入している。

<岐阜薬科大学>

- (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・岐阜大学医学部附属病院・岐阜市民病院・岐阜薬科大学附属薬局に臨床系教員を配置し、大学・医療機関で密に連携して5年生における病院・薬局実務実習を行っている。岐阜における実務実習の先進的な実務実習のモデルとなっていると同時に、全国に対しては論文・学会発表等でその取り組みを報告している。

<名古屋市立大学>

- (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・東海薬学教育コンソーシアムでは 11月に東海地区の薬系7大学学部長、教務主任、臨床教育担当者の会議を行い、カリキュラム、実務実習、共用試験などについて意見交換ならびに情報共有するとともに、薬剤師会や病院薬剤師会との連携をはかる協議を行っている。また 東海地区の臨床系教員と薬剤師会、病院薬剤師会とのワークショップを開催し、実務実習などのレベルアップに向けての提言などをまとめている。

<京都大学>

- (1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方及び (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・モデル・コアカリキュラムに基づく実務実習における薬局・病院・大学の連携強化を目的とし、実務実習実施体制としてグループ化を取り入れている。大学、病院とその近隣の薬局を一つのグループとし、グループ単位での協議会を開催し、2019年度に開始されたモデル・コアカリキュラムに準拠した実習の振り返りや、さらなる実務実習の質向上を目指した協議を行った。
 - ・コロナ禍において患者との接触が制限され、実習中に体験する症例数の減少とリアリティのある患者応対の機会の確保が課題となっている。これらの課題を克服すると共に、今後普及が見込まれるオンライン服薬指導に適応するために、患者と非接触環境下におけるコミュニケーション能力を醸成するための環境整備が必要である。そこで、①テレプレゼンシステム「窓」(SONY)を導入し、病院実務実習(5年次必修)において外来での吸入指導や病棟での薬剤管理指導に利用し、患者と非接触でのコミュニケーションを実施する。また、②症例シナリオを実装した人型シミュレータ「SCENARIO」(京都科学)を導入し、実務実習前の医療実務事前学習(4年次必修)において、患者アセスメントに関わる演習を新たに実施する。さらに実務実習終了後にも、実習中に体験できなかった症例の補完や体験した症例の振り返りのために本シミュレータを使用する。といった医療DXの整備を進め、実施に向けての準備を行った。
- (3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、
- ・薬学部の特色入試では、京都大学全体での特色入試方針のもとに行っている。高大接続を重んじるという観点から、「調査書」に加え「学業活動報告書」、「学びの設計書」をもとに志願者自らの学ぶ意欲や志について書類審査を通じて評価する。さらに、学部が定めたカリキュラムの内容を修得するのに必要とされる基礎学力や個々の学部における教育コースにとって望ましい能力を重んじるという観点から、書類審査に加えて、大学入試センター試験の成績、薬学部独自の能力測定考査、論文試験、面接試験、口頭試問を行う。

<岡山大学>

- (1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方に関して、
- ・モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方として、モデル・コアカリキュラム対応実習における形成的評価に関して、従来、岡山大学病院独自で作成・使用されてきたルーブリック評価表からの外挿方法を確立し、また、薬局実習委員会で県薬剤師会と共同で作成した連携ツールを活用した薬局と病院との情報共有を行っている。
- (2) 実務実習実施体制及び (4) 第三者評価への対応に関して、
- ・実務実習実施体制および第三者評価への対応として学部長も含めて基礎系教員を含む全教員で薬局実務実習生の実習進捗状況のWebでの見守りと施設訪問を行う責任教員体制を構築し、薬学部全教員で実務実習中の実習生の指導を行っている。
- (8) その他に関して、
- ・1、2年次に早期に研究体験できる「薬学研究入門」を実施している。

<広島大学>

- (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・ 県薬、県病薬と実務実習の在り方について検討している。
- (6) 大学院博士課程における教育研究の在り方に関して、
- ・ 博士課程への進学率向上に向けて、学部入学後から研究室で研究に触れる機会を増やしている。

<山陽小野田市立山口東京理科大学>

- (1) モデル・コアカリキュラムに準拠した教育の在り方に関して、
- ・ 薬学教育体系の可視化に取り組んでいる（科目毎のルーブリックの作成）
- (3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、
- ・ 入試改革への対応を検討している。

<徳島大学>

- (3) 文科省令改正への対応・入試改革への対応に関して、
- ・ 本学では2021年度入学生より6年制のみとなり、創製薬科学研究者育成コース（30人）と先導的薬剤師育成コース（50人）が設置された。先導的薬剤師育成コースはさらに研究型高度医療薬剤師育成（40人）と研究型地域医療薬剤師育成（10人）に分かれる。これらのコースに合わせて、特色ある教育プログラムや実務実習実施体制の構築、大学院博士課程の充実化に向けて準備を進めている。

<九州大学>

- (6) 大学院博士課程における教育研究の在り方に関して、
- ・ 研究マインドをもった薬剤師の養成を行うために、学部1年次から研究室での研究を直接見聞することができるようなカリキュラムを検討し、令和4年度入学者から開始する。

<熊本大学>

- (2) 実務実習実施体制に関して、
- ・ 医学部の協力を得て、医学生との臨床実習（ポリクリ）を実施している。
 - ・ 独自の全学年を通したe-ポートフォリオを導入している。
- (8) その他に関して、
- ・ PROGテスト、マナー・人材育成の講義を実施している。
 - ・ アントレプレナーの講義とスモールグループディスカッションを実施している。

4. 大学院博士課程進学を促進するための取組や教育研究プログラム

大学院博士課程進学者数は、2006年度の薬学6年制1期生が卒業生し大学院に進学する2012

年度以降、多くの国公立大学で入学定員が満たされない状況が長く続いており、改善の兆しが見えない。このままの状況が続けば、社会が求める大学院4年制博士課程修了者、すなわち薬剤師免許を持った薬学博士を十分に輩出することができず、例えば、近い将来、薬学教育研究を担う大学教員や、また世界に伍する創薬研究や臨床研究、最先端の医療を主導できる高度薬学人材の大幅な減少が予想され、ひいては学問領域としての“薬学”の大きな衰退が懸念されるところである。

国公立大学では、このような薬学6年制導入による大学院博士課程進学者数の大幅な減少を危惧し、早急に対応すべき課題として前事業においても、キャリアアップワークショップ等の開催により、学部生の博士課程進学モチベーション向上に努めてきた。しかし、大きな促進効果は認められず、本事業においても引き続き課題解決に向けた検討を続けてきたところである。

先に示した通り、2019年度に設置された国公立大学薬学6年制教育研究検討委員会においても、「(6) 大学院博士課程における教育研究の在り方」として取り上げ、最重要課題として検討を行っており、その結果を本事業に反映して、前事業に増して積極的な取組や教育研究プログラムを実施しているところであるが、これらは別項目で報告することとし、ここでは前事業以来の参画大学における教育研究活動を「大学院博士課程進学を促進するための取組や教育研究プログラム」として報告する。

以下、参画大学の事業成果報告をもとに、年度毎に、実施大学別に教育研究プログラムとその概要をまとめた。プログラム名に（*）を付したものについては、別添の資料が提出されているが、紙面の関係上本報告書には掲載していない。これらについては、本事業のホームページあるいは各実施大学のホームページ等で公開しているので、参照いただきたい。

【2016年（平成28年）度】

<金沢大学>

- ・5年次生の学生を中心に進学説明会を実施し、経済的サポート体制や卒業後のキャリアについての説明を行う。

<九州大学>

- ・2期（8月、1月）に分けて募集・選考を行うことで、年複数回の入学機会を確保している。
- ・社会人特別選抜入試を実施し、薬剤師として医療機関に勤めている者を幅広く受け入れている。

<熊本大学>

- ・大学院入試説明会を5月末に開催している。

【2017年（平成29年）度】

<北海道大学>

- ・年2回東京にて入試相談会を実施している。社会人コースにおいては、長期履修制度を設けて勤務状況に応じた履修計画が可能なように配慮している。

<東北大学>

- ・各分野で対象学生に大学院制度に関する説明（研究内容、卒業後の進路、ティーチングアシスタント制度・リサーチアシスタント制度や奨学金制度など）継続的に実施する予定である。

<千葉大学>

- ・博士課程教育リーディングプログラム「免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム」**(*)**を実施し、医学と薬学が融合した大学院4年博士課程に組織している。

<東京大学>

- ・博士課程入試の説明会を実施している。

<金沢大学>

- ・5年次生の学生を中心に進学説明会を実施し、経済的サポート体制や卒業後のキャリアについての説明を行う。

<名古屋市立大学>

- ・長期履修制度を整備し、社会人大学院の学位取得推進のため、授業料4年分で年限を6年まで延長可能としている（事前審査あり）。

<広島大学>

- ・社会人コースや留学生コースへの入学生を増やすために、近隣病院・薬局や海外協定大学への働きかけを行っている。

<九州大学>

- ・シンポジウム「大学院4年制博士課程に望まれる薬学研究を考える」を開催した。
- ・2期（8月、1月）に分けて募集・選考を行うことで、年複数回の入学機会を確保している。
- ・社会人特別選抜入試を実施し、薬剤師として医療機関等に勤めている者を幅広く受入れている。

<熊本大学>

- ・大学院入試説明会を5月末に開催している。

- ・H I G Oプログラムによって博士課程学生を支援し研究をサポートする体制を構築している。

【2018年（平成30年）度】

<北海道大学>

- ・年2回東京にて入試相談会を実施している。社会人コースにおいては、長期履修制度を設けて勤務状況に応じた履修計画が可能なように配慮している。

<千葉大学>

- ・博士課程教育リーディングプログラム「免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラム」**(*)**を実施し、医学と薬学が融合した大学院4年博士課程を組織している。

<東京大学>

- ・博士課程入試の説明会を実施している。
- ・博士課程進学者に対する奨学金プログラムを整備している（若干名）。

<金沢大学>

- ・5年生の学生を中心に進学説明会を実施し、経済的サポート体制や卒業後のキャリアについての説明を行う。
- ・2018年度から入試制度の変更を行い、大学院まで一貫した教育を指向したコースを設定した。学類指定の入学試験、経済的サポート、本コース用のプログラムを別途設定している。

<名古屋市立大学>

- ・長期履修制度を整備し、社会人大学院の学位取得推進のため、授業料4年分で年限を6年まで延長可能としている（事前審査あり）。

<岐阜薬科大学>

- ・大学院進学ガイダンスを実施している。

<京都大学>

- ・2018年度入学生より学部カリキュラムを大幅に改編し、学生の興味や将来の進路に合わせた授業選択が出来るようにする。加えて、早期より研究に触れる機会を与え、学習や研究に対するモチベーションを学部6年間を通じて維持できるようにすることで、博士課程への進学を促す。

<岡山大学>

- ・研究機関・企業等の研究者による講演会を実施している。

<広島大学>

- ・社会人コースや留学生コースへの入学生を増やすために、近隣病院・薬局や海外協定大学への働きかけを行っている。

<九州大学>

- ・シンポジウム「大学院4年制博士課程に望まれる薬学研究を考える」を開催した。
- ・2期（8月、1月）に分けて募集・選考を行うことで、年複数回の入学機会を確保している。
- ・社会人特別選抜入試を実施し、薬剤師として医療機関等に勤めている者を幅広く受入れている。

<熊本大学>

- ・大学院入試説明会を5月末に開催している。
- ・H I G Oプログラムによって博士課程学生を支援し研究をサポートする体制を構築している。

【2019年（平成31年／令和元年）度】

<北海道大学>

- ・年2回東京にて入試相談会を実施している。社会人コースにおいては、長期履修制度を設けて勤務状況に応じた履修計画が可能なように配慮している。

<東北大学>

- ・毎年の薬学科ガイダンスにおいて博士課程の説明を行っている（3年次生～6年次生）。
- ・6年制学生が配属した分野において、さらには教員等が博士修了後のキャリアパス、社会からの国立大学修了生への期待、研究の魅力等の話しをする機会を設けている。

<千葉大学>

- ・革新医療創生CHIBA卓越大学院（8名在籍）において、国内外の一流研究機関および国内企業と連携し、「クラスター制CHIBA教育システム」を構築して、様々なクラスターに所属する教員の協力の上に、「俯瞰力、柔軟な思考、挑戦する意欲、レジリエンスそしてイノベーションマインドを持って革新医療創生に取り組む人材」を養成することを目指している。

<東京大学>

- ・博士課程入試の説明会を実施している。
- ・博士課程進学者に対する奨学金プログラムを整備している（若干名）。

<金沢大学>

- ・5年生の学生を中心に進学説明会を実施し、経済的サポート体制や卒業後のキャリアについての説明を行う。
- ・2018年度から入試制度の変更を行い、大学院まで一貫した教育を指向したコースを設定した。学類指定の入学試験、経済的サポート、本コース用のプログラムを別途設定している。

<名古屋市立大学>

- ・長期履修制度を整備し、社会人大学院の学位取得推進のため、授業料4年分で年限を6年まで延長可能としている（事前審査あり）。
- ・学内進学希望者向け説明会を実施している。

<岐阜薬科大学>

- ・大学院進学ガイダンスを実施している。

<京都大学>

- ・2018年度入学生より学部カリキュラムを大幅に改編し、学生の興味や将来の進路に合わせた授業選択が出来るようにする。加えて、早期より研究に触れる機会を与え、学習や研究に対するモチベーションを学部6年間を通じて維持できるようにすることで、博士課程への進学を促す。

<岡山大学>

- ・研究機関・企業等の研究者による講演会を実施している。
- ・1年次生からの研究室体験を実施している。

<広島大学>

- ・社会人コースや留学生コースへの入学生を増やすために、近隣病院・薬局や海外協定大学への働きかけを行っている。
- ・学部1年次の早期研究室体験を実施している。

<九州大学>

- ・シンポジウム「大学院4年制博士課程に望まれる薬学研究を考える」を開催した。
- ・2期（8月、1月）に分けて募集・選考を行うことで、年複数回の入学機会を確保している。
- ・社会人特別選抜入試を実施し、薬剤師として医療機関等に勤めている者を幅広く受入れている。

<熊本大学>

- ・大学院入試説明会を5月末に開催している。
- ・H I G Oプログラムによって博士課程学生を支援し研究をサポートする体制を構築している。

【2020年（令和2年）度】

<北海道大学>

- ・年2回東京にて入試相談会を実施している。社会人コースにおいては、長期履修制度を設けて勤務状況に応じた履修計画が可能なように配慮している。

<東北大学>

- ・毎年の薬学科ガイダンスにおいて博士課程の説明を行っている（3年次生～6年次生）。
- ・6年制学生が配属した分野において、さらには教員等が博士修了後のキャリアパス、社会からの国立大学修了生への期待、研究の魅力等の話しをする機会を設けている。

<千葉大学>

- ・革新医療創生CHIBA卓越大学院（8名在籍）において、国内外の一流研究機関および国内企業と連携し、「クラスター制CHIBA教育システム」を構築して、様々なクラスターに所属する教員の協力の上に、「俯瞰力、柔軟な思考、挑戦する意欲、レジリエンスそしてイノベーションマインドを持って革新医療創生に取り組む人材」を養成することを目指している。

<東京大学>

- ・博士課程入試の説明会を実施している。
- ・博士課程進学者に対する奨学金プログラムを整備している（若干名）。

<富山大学>

- ・富山大学地域産業イノベーション創出フェローシップ事業により、対象となった学生に対し、2年次から4年次まで研究専念支援金及び研究費を支給する。

<金沢大学>

- ・大学院進学説明会・高大院接続入試を実施している。
- ・博士課程一貫コースを設置した。
- ・各種学生支援（奨学金）制度の設立している。

<名古屋市立大学>

- ・長期履修制度を整備し、社会人大学院の学位取得推進のため、授業料4年分で年限を6年まで延長可能としている（事前審査あり）。
- ・大学院説明会、学内進学希望者向け説明会を実施している。

<岐阜薬科大学>

- ・2年次生を対象とした大学院進学ガイダンスを実施している。

<京都大学>

- ・2018年度入学生より学部カリキュラムを大幅に改編し、学生の興味や将来の進路に合わせた授業選択が出来るようにする。加えて、早期より研究に触れる機会を与え、学習や研究に対するモチベーションを学部6年間を通じて維持できるようにすることで、博士課程への進学を促す。

<岡山大学>

- ・研究機関・企業等の研究者による講演会を実施している。
- ・1年次生からの研究室体験を実施している。

<広島大学>

- ・社会人コースや留学生コースへの入学生を増やすために、近隣病院・薬局や海外協定大学への働きかけを行っている。
- ・学部1年次の早期研究室体験を実施している。

<九州大学>

- ・臨床薬学科4年～6年及び修士・博士学生を対象としたキャリアアップセミナーを開催した。
- ・2期（8月、1月）に分けて募集・選考を行うことで、年複数回の入学機会を確保している。
- ・社会人特別選抜入試を実施し、薬剤師として医療機関等に勤めている者を幅広く受入れている。

<熊本大学>

- ・大学院入試説明会を5月末に開催しているが、2020年度は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で対面による入試説明会は開催できず、九州圏内の大学、高等専門学校にポスターを配布した。
- ・H I G Oプログラムによって博士課程学生を支援し研究をサポートする体制を構築している。

【2021年（令和3年）度】

<北海道大学>

- ・年2回東京にて入試相談会を計画していたが、2021年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で実施できなかった。
- ・社会人コースにおいては、長期履修制度を設けて勤務状況に応じた履修計画が可能なよう

に配慮している。

<東北大学>

- ・ 毎年の薬学科ガイダンスにおいて博士課程の説明を行っている（3年次生～6年次生）。
- ・ 6年制学生が配属した分野において、さらには教員等が博士修了後のキャリアパス、社会からの国立大学修了生への期待、研究の魅力等の話しをする機会を設けている。
- ・ 博士課程（薬学履修）において短期修了の要件を検討し、開始した。
- ・ 博士後期課程・博士課程大学院生への経済的支援を全学的に行っており、JST事業次世代研究者挑戦的研究プログラム等から支援（生活費・研究費）を受ける学生が出ている。

<千葉大学>

- ・ 革新医療創生CHIBA卓越大学院（8名在籍）において、国内外の一流研究機関および国内企業と連携し、「クラスター制CHIBA教育システム」を構築して、様々なクラスターに所属する教員の協力の上に、「俯瞰力、柔軟な思考、挑戦する意欲、レジリエンスそしてイノベーションマインドを持って革新医療創生に取り組む人材」を養成することを目指している。
- ・ 千葉大学博士課程教育リーディングプログラムにおいて、免疫システム調節治療学推進リーダー養成プログラムにおいて、将来国内外の大学や研究所のみならず製薬企業等で新しい治療薬や治療法の開発を推進するリーダー、大学病院などの基幹病院で先端医療の開発・実践を統率する責任者や医療行政機関の指導者として活躍できる人材の養成を目指している。
- ・ 情報医工学フェロシッププログラムにおいて、革新的医療技術を創生する研究者の育成を目指し、優秀で進取の気概のある博士後期課程学生に研究専念支援金を支給するとともに、研究力向上やキャリアパス支援・確保の活動を行っている。
- ・ 千葉大学大学院生等海外派遣プログラム、日本学術振興会特別研究員（DC1、DG2、PD1、RPD、CPD）、日本学生支援機構（JASSO）奨学金変換免除、日本薬学会会長井記念薬学研究奨励金、千葉大学ティーチングアシスタント、リサーチアシスタントなどによって、学生を支援している。

<東京大学>

- ・ 博士課程入試の説明会を実施している。
- ・ 博士課程進学者に対する奨学金プログラムを整備している（若干名）。

<富山大学>

- ・ 富山大学地域産業イノベーション創出フェロシップ事業により、対象となった学生に対し、2年次から4年次まで研究専念支援金及び研究費を支給する。
- ・ 博士課程への進学を前提としている総合型選抜を経ている学生については、一定の条件を満たせば、研究室配属先を優先的に選択することができるようにする予定である。

<金沢大学>

- ・大学院進学説明会・高大院接続入試を実施している。

<名古屋市立大学>

- ・長期履修制度を整備し、社会人大学院の学位取得推進のため、授業料4年分で年限を6年まで延長可能としている（事前審査あり）。
- ・大学院説明会、学内進学希望者向け説明会を実施している。

<岐阜薬科大学>

- ・2年次生を対象とした大学院進学ガイダンスを実施している。
- ・成長支援助成金、R A・T Aなどの資金援助に加えて学内で競争的となるJ S T次世代挑戦的研究プログラムの採択が採択された。
- ・学外の競争的支援金制度である日本薬学会の長井記念研究支援事業や日本学術振興会の特別研究員制度への申請にも力を入れ、大学院進学による不安を取り除く制度を導入している。
- ・所属研究室によっては、外部資金を資金源とした独自のR Aや研究員制度を導入して生活費の援助を実施している。
- ・同窓会の資産を原資とした大学院進学学生への助成金制度を導入し、現在実施している取組から漏れた学生の支援に充てる予定である。

<京都大学>

- ・大学院教育支援機構プログラム・大学フェローシップ事業・沢井奨学金・藤多仁生奨学金・薬学研究科ティーチングアシスタント制度(概要：大学院生への経済支援・奨学金制度)などによって、学生を支援している。

<岡山大学>

- ・医療機関、大学等へP Rポスター（試験情報）の配布、今後の志願者増への取組を検討すべく外部ステークホルダーへのアンケートを実施している。
- ・1年次生からの研究室体験を実施している。
- ・学位プログラムを導入し、学生が主体的に学修に取り組めるよう体制を変更する予定である。

<広島大学>

- ・社会人コースや留学生コースへの入学生を増やすために、近隣病院・薬局や海外協定大学への働きかけを行っている。
- ・学部1年次の早期研究室体験を実施している。

<九州大学>

- ・臨床薬学科4年～6年及び修士・博士学生を対象としたキャリアアップセミナーを開催した。
- ・2期（8月、1月）に分けて募集・選考を行うことで、年複数回の入学機会を確保している。
- ・社会人特別選抜入試を実施し、薬剤師として医療機関等に勤めている者を幅広く受入れている。

<熊本大学>

- ・九州圏内の大学、高等専門学校にポスターを配布した。ホームページによる広報活動を充実させている。
- ・H I G Oプログラムによって博士課程学生を支援し研究をサポートする体制を構築している。